

☑️ コクヨCSR憲章	☑️ 会社概要	☑️ コクヨが主に取り組む領域	☑️ コクヨの取り組みとその歩み	☑️ 未来と社会のための取り組み	☑️ コクヨのさまざまな取り組み	☑️ 2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☑️ コクヨのCSR	☑️ 環境	☑️ 社会	☑️ ガバナンス	☑️ 社外からの評価	☑️ 対照表	

## コクヨ CSR 憲章

コクヨグループは、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になります。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努めます。

### お客様

- 1 すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていきます。
- 2 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業を目指します。

### 地域社会

- 1 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

### 環境保全

- 1 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こします。
- 2 エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組みます。
- 3 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

### 企業活動

- 1 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 2 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことを目指します。
- 3 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持します。

### 人権尊重

- 1 あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境を目指すとともに児童労働・強制労働を認めません。
- 2 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人材がその能力を十分に発揮し、成長できる企業を目指します。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

# Contents

● コクヨCSR憲章	01	● 社会	35
● 会社概要	03	人権・人材マネジメント	35
● コクヨが主に取り組む領域	04	人権尊重	35
● コクヨの取り組みと、その歩み	06	ダイバーシティの推進	36
● 未来と社会のための取り組み	10	人材育成	38
● コクヨのさまざまな取り組み	11	社員とのコミュニケーション	41
● 2018年 コクヨの取り組みのご紹介	12	労働安全衛生	44
● コクヨのCSR	14	社員の安全と健康	44
トップメッセージ	14	働き方改革	48
CSRマネジメント	15	サプライチェーン・マネジメント	50
● 環境	19	取引先との取り組み	50
環境経営マネジメントと第三者保証	19	製品品質	54
地球温暖化防止対策	24	お客様への安心・安全の提供	54
省資源・リサイクル対策	27	お客様との対話	59
法順守と汚染の防止	28	新たな価値創造	61
環境に配慮した製品・サービスの開発	29	2018年 主な新商品・サービス一覧	63
生物多様性・環境コミュニケーションの推進	31	社会貢献	65
		日本国内での貢献活動	65
		海外での貢献活動	68
		● ガバナンス	70
		コーポレートガバナンス	70
		コンプライアンスの推進	74
		リスクマネジメント	75
		株主とともに	78
		● 社外からの評価	80
		外部からの表彰・評価	80
		「CSR報告書2018」アンケート結果	84
		● 対照表	85
		GRI Standards対照表	85
		ISO26000	90

## 対象期間

2018年1月1日から2018年12月31日

## 発刊時期

報告書発刊：2019年5月  
 次回発刊予定：2020年4月  
 前回発刊：2018年5月

## 対象範囲

本報告書における対象範囲はコクヨ(株)と連結子会社20社を基本とし、一部の活動実績については、関連会社を含んでいます。

## 参考ガイドライン

・ISO26000  
 ・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」  
 ・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」

☑️コクヨCSR憲章	☑️会社概要	☑️コクヨが主に取り組む領域	☑️コクヨの取り組みと、その歩み	☑️未来と社会のための取り組み	☑️コクヨのさまざまな取り組み	☑️2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☑️コクヨのCSR	☑️環境	☑️社会	☑️ガバナンス	☑️社外からの評価	☑️対照表	

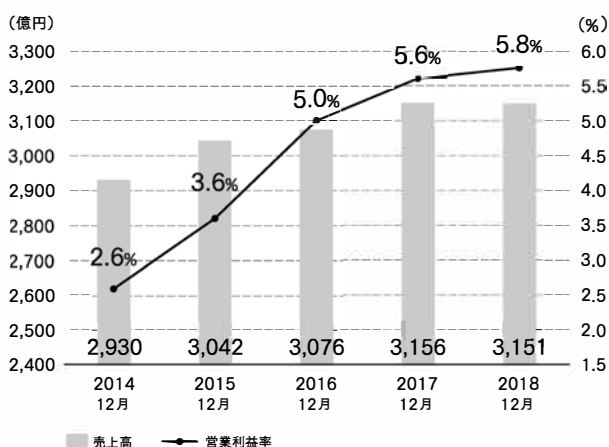
## 会社概要

Date

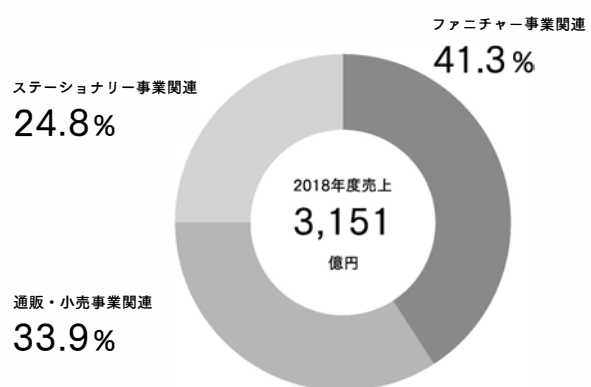
正式社名	コクヨ株式会社
英文社名	KOKUYO Co.,Ltd.
本社所在地	〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 TEL:(06)6976-1221 (代表)
従業員数	連結 6,784 名、単体 2,019 名 (2018年12月末現在)
上場市場	東京証券取引所 市場第一部
資本金	158 億円
売上高	3,151 億円 (連結2018年1月1日～2018年12月31日)
事業内容	文房具の製造・仕入れ・販売、オフィス家具の製造・仕入れ・販売、 空間デザイン・コンサルテーションなど

## 財務データ推移グラフ

売上高・営業利益率



連結売上高構成比



※売上高比率は「外部顧客への売上高」で算出しています。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

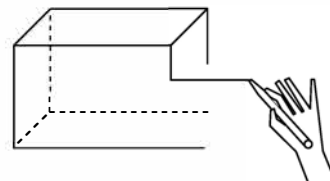
## コクヨが主に取り組む領域

Date

2019年コクヨは、  
事業の領域＝ドメインを新たに設定しました。  
そのドメインについてご説明いたします。  
これはコクヨの新しい取り組みであり、  
お客様にご提供する価値の領域を  
新たに広げていこうという挑戦でもあります。

### 空間価値ドメイン

働き方の変化に合わせて、  
「はたらく」人を思い  
「空間」を考え、提案します。

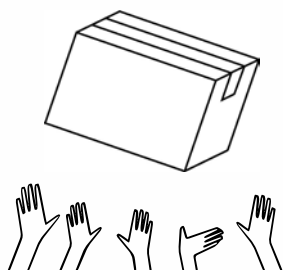


さらに多様化するワークスタイルのニーズに  
向き合い、これからの働き方、働く人の暮らし  
方までを考え、モノとコト、サービスを含  
めた事業を展開します。お客様の「はたらく」  
「まなぶ」「くらす」が、より創造的に、快適  
になる空間をご提案してまいります。

オフィス・医療機関・教育機関・官公庁などの家具の  
製造／納品／組立て、それぞれの空間設計／構築、働  
き方コンサルティング、インテリア家具の製造／輸入  
／販売（アクタス）など

## ビジネスサプライドメイン

文具からオフィス家具まで  
「使う」快適さのために  
「届ける」を考えます。

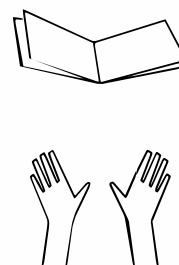


オフィスで使うものを「トータル」でお届けできるのはコクヨだから。オフィス用品運用の効率化と販売店さまの受発注業務の効率化をサポートいたします。ツールをストレスなくお使いいただくための、サービスです。

個人・法人向けの事務用品通販「カウネット」、文房具店 web 発注システム「KiSPA」、オフィスでの文具・事務用品の購買システムの提案・支援など

## グローバルステーションナリードメイン

国内外の「はたらく」「まなぶ」  
「くらす」を思い、創造性を  
発揮できる文具を提供します。



文具が使う人の創造性をかき立てる。文具を通して「はたらく」「まなぶ」「くらす」が、もっと豊かになる。モノを通じサービスをお届けする事業。国内と国外での文具の製造販売をはじめ、多様化するニーズにおこたえます。

滋賀、鳥取、中国、インドなど国内外における文具の製造販売、創作絵本シリーズ・創作ツールの開発販売、帳票電子化サービス@Tovas など

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## コクヨの取り組みと、その歩み

Date

1905		1914		1959		1965	
1908		1932		1960		1966	
1913		1956		1964		1975	
1905	黒田善太郎が和式帳簿の表紙を製造する「黒田表紙店」を開業	1914	店名を「黒田国光堂」と改称 伝票、仕切書、複写簿、便箋の製造を開始	1959	測量野帳発売	1965	スチールデスク発売
1908	和帳の製造を開始	1932	色紙付書翰箋発売	1960	オフィス家具の製造販売を開始 ファイリングキャビネット発売	1966	事務用回転イス発売
1913	洋式帳簿の既製品化を開始	1956	フラットファイル発売	1961	社名を「コクヨ株式会社」に変更	1969	日本初のライブオフィス誕生
				1964	スクラップブック発売	1975	キャンパスノート発売 教育施設用家具の製造を開始

1981



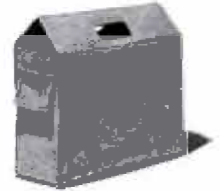
2003



2012



2016



1983



2005



2015



2017



2000



2009



2015



2018



1981

「ロングランドesk  
くるくるメカ」発売

2003

コクヨKハート設立  
カドケン発売

2011

インドのCamlin Limited  
の株式取得、  
「コクヨカムリン」に  
社名変更

2016

「モバイルバッグ  
(mo・baco)」発売

1983

ファイルボックス-FS発売

2004

分社化 持ち株会社制へ

2012

鉛筆シャープ発売

2017

ショップ&カフェ  
THINK OF THINGS  
オープン

1996

海外現地法人を設立し、  
文房具・家具の製造、  
販売、輸出入業務を開始

2005

創業100年、  
コーポレートロゴ一新

2013

カウコレ誕生

2018

オフィスチェア「ing」  
発売

1998

ユニバーサルデザインへの  
取り組み開始

2006

テープのり「ドットライナー」  
発売

2015

事業再統合

2018

接着用品ブランド  
「GLOO」発売

2000

カウネット設立

2008

株式会社アクタスへ  
資本参加

2015

家具ブランド  
「DAYS OFFICE」発売

2002

ユニバーサルデザインの画  
鋏「プニョプニョピン」発売

2009

エコバツマークの  
取り組み開始

2015

ソフトリング® ノート  
発売

2002

コクヨデザインアワード  
開始

2009

「針なしステープラー  
(ハリナックス)」発売

## キャンパスノートの進化

使う人のニーズに合わせて、  
絶え間なく進化してきました。

1975



### 初代キャンパスノート

1959年、当時主流であった糸とじとは全く違う「無線とじ」を製品化。全国の学生向けに初代キャンパスノートを発売しました。

1983



### 2代目キャンパスノート

表紙で罫内容が分かるようA罫・B罫の英文字と罫線イメージを大胆に表示。新しくロゴを作成し、親しみやすく飽きのこないデザインで社会人にも定着しました。

## ライブオフィスの実践と変遷

モノづくりと空間構築、  
ワークスタイルの研究の成果を実践し、  
ショールームとして公開。

1969



### 日本初のライブオフィス

日本初のライブオフィスとして、社員が実際に働く姿が見学できる「生きたショールーム」が誕生しました。

1980s



### コミュニケーション支援オフィス

コミュニケーションに対するニーズの高まりに応えた、日々の効率的な作業をサポートするオフィスを提案しました。

1991



### 3 代目キャンパスノート

過去に類を見ないビビッドな色使いと、縦にロゴを配置するという思い切った変更を行い、とことんデザインにこだわることでさらなる独自性を高めました。

2000



### 4 代目キャンパスノート

お客様の満足度を高めるために、徹底的に材料を研究。絶え間ない努力の結果、最後までノートを使っても破れにくい新クロスの開発に成功しました。

2011



### 5 代目キャンパスノート

背クロスの表面加工を見直すことでペンで書き込みがしやすくなったほか、中紙の原紙の仕様や罫線を変更したことでより線が引きやすく使いやすいノートになりました。

1990s



### 大規模フリーアドレスオフィス

デバイスの進化をいち早くキャッチし、固定した自席をもたない「フリーアドレス」を実践しました。

2000s



### 大規模オール無線 LAN オフィス

社内どこでも移動して利用できる無線 LAN システムを導入。IP 携帯電話の活用によるコストダウンも実現しました。

2010s



### クラウドワーク支援オフィス

進化するクラウド支援を活用。チームコミュニケーションを築き、社内との新しいつながり方をつくりだしました。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## 未来と社会のための取り組み

Date

これからをつくるアイデアへの支援、これからの環境のための支援も行っています。



### コクヨデザインアワード

2002年にスタートした、使う人の視点で優れた商品デザインを広くユーザーから集めて、商品化をめざすコンペティションです。「カドケシ」などのヒット商品も誕生。近年はプロダクトデザインの国際アワードとして成長しています。



### 働き方研究

1986年オフィス研究所を開設。関連商品や空間の研究、オフィスコンサルティング活動を開始。研究情報誌「ECIFFO」、ワークスタイル戦略情報メディア「WORKSIGHT」、ワークスタイル研究所HPを通じ、情報発信をしています。



### 結の森

「結の森」プロジェクトは2006年、高知県の四万十町森林組合とともにスタートし、間伐及び間伐材の有効活用を中心とした森林保全活動に取り組んでいます。



### ReEDEN プロジェクト

コクヨ工業滋賀は、琵琶湖の水質や生物多様性の維持という重要な役割を担うヨシの保全に取り組んでいます。その生産技術を生かし、ヨシ原料のコピー用紙やノートなどを、ReEDEN（リエデン）シリーズとして販売しています。



### Camel Art Foundation

CAFの主な目的はインドの芸術シーンの底上げを図ること。芸術活動のプラットフォームの構築や展示会の開催などにより、若手芸術家が作品を発表するチャンスやプロの芸術家が名声を高める機会を提供しています。



### K ハート&ハートランド

コクヨの障害者雇用は1940年大阪市立聾唖学校（現大阪府立中央聴覚支援学校）の生徒採用に始まり、現在、印刷及び業務受託として特例子会社コクヨKハートと農業法人特例子会社ハートランドとでさまざまな障害を持つ社員の特性に応じた業務を行っています。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## コクヨのさまざまな取り組み

Date 2019.03.27

より豊かな「はたらく」「まなぶ」「くらす」をかなえるためのコクヨのチャレンジ。



### ビジネスコンシェルジュ

ビジネス版の「コンシェルジュサービス」として、オフィス運営やドキュメントデザインなど生産性向上に繋がる幅広いサービスを展開しています。「一歩先ゆく 気づき・くふう」で、オフィスで働く人に快適な環境を提供していきます。



### メンバー制ワークラウンジ「Creative Lounge MOV」

これからの働き方を実践するメンバー制ワークラウンジ。異文化・異分野の人たちが出会い、お互いのアイデアやリソースを交換しながら新しいムーブメントをつくる、渋谷らしい働き方ができる場所です。



### コクヨの絵本

「親子のコミュニケーション」と「創造力育成」をテーマに、「かおノート」「おしゃれノート」などのワークブックや、「ミックス色鉛筆」「透明くれよん」などの画材を製造・販売しています。



### 防災ソリューション

オフィス環境を熟知しているからこそその「防災」を提案しています。それぞれのオフィスに最適な防災用品を選び出し、その中で、足りないもの、不便なものは一から研究を行い、工夫や改良を重ねて、ひとつひとつかたちにしています。



### ショップ&カフェ「THINK OF THINGS」

生活と仕事の双方に刺激や発見をもたらす道具という観点で商品を揃えた、コクヨ直営のライフスタイルショップ&カフェです。未来に向けてコクヨが発揮できる価値について考え、創造する場となることを目指しています。



### インテリア&ライフスタイル「ACTUS」

ヨーロッパの輸入モダンインテリアの先駆けとし創業。現在、「衣食住」生活にまつわるすべてのカテゴリーを総合的にご提案するライフスタイルカンパニーとして、お客様に「上質で、丁寧な暮らし」をお届けしています。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## 2018年 コクヨの取り組みのご紹介

Date

人を、世界を、未来を考えてさまざまな取り組みを展開しました。



### 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルサポーターに決定

コクヨは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルサポーターとして、大会を支える関係者や東京2020の方々へのオフィス家具や文具を提供することにより、皆様の心に残る大会となるよう貢献して参ります。



### IoT文具「しゅくだいやる気ペン」を開発

鉛筆に筆記の動きを認識するアタッチメントを装着し、スマートフォンと連動させることで、日々の筆記量を見える化するIoT文具「しゅくだいやる気ペン」の開発に着手しました。日々の努力が見える化されることで、単調になりがちな反復学習に楽しみをもたせ、子どもが“書く”ことに親しみ、自発的に宿題にとりかかる習慣づくりを支援します。



### 文具イベント「コクヨハク」を上海で初開催

2018年12月、中国初となるコクヨの文具イベント「KOKUYO HAKU 国誉博上海」を上海にて開催しました。



### 『BEYOND BOUNDARIES』をテーマ にココヨデザインアワード2018を開催

仕事と生活の境界の曖昧が進むなど、今まで当然とされていた境界のあり方が変化している背景に、『BEYOND BOUNDARIES』というテーマで作品を募集しました。

結果、国内外から合計1,289点が応募され、2019年1月に、「音色鉛筆で描く世界」など受賞作品計4作品を決定しました。

### 多様な働き方にチャレンジ「ワクワク、 スマートワーク」を実施

社員が働くことにワクワクしながら多様な働き方を実現することを目指して、7月23日から3か月間、テレワークのトライアルを行いました。

### 表彰



### 15のココヨ商品が「2018年度 グッドデザイン賞」を受賞

2018年度グッドデザイン賞で15件受賞し、このうち特に高く評価された「グッドデザイン・ベスト100」には、オフィス防災備蓄システム「PARTS-FIT」、ロングライフデザイン賞には、スクラップブック「スクラップブックD」が選出されました。



### 「FRAME Awards Orgatec」の 2部門でグランプリ受賞

オフィス家具見本市「オルガテック2018」のココヨの出展ブースが、オランダのインテリアデザイン雑誌「FRAME」が選ぶ「FRAME Awards Orgatec」の「照明部門」と「スタンド部門」の2部門にてグランプリを受賞しました。

### 時差Biz推進賞（ワークスタイル部 門）を受賞



新しい働き方へのチャレンジ「ワクワク、スマートワーク」の取り組みが、東京都が主催する時差Biz推進賞のワークスタイル部門を受賞しました。

### 「結の森」が「グリーンウェイブ賞」 を受賞



CSR活動「結の森プロジェクト」が、森林の循環利用と地域振興の点において高く評価され、生物多様性アクション大賞2018の特別賞「グリーンウェイブ賞」を受賞しました。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ コクヨのCSR

### トップメッセージ

お客様、社会が抱える課題に真摯に向き合い、その課題を解いていくことで、持続的な社会の実現を目指します。

コクヨ株式会社  
代表取締役 社長 CEO  
黒田 英邦



#### 「働き方改革」を自らが実践し、新たな働き方を探求

いま、少子高齢化や若年層の価値観(労働観)の変化、健康経営への注目、グローバル競争激化など、私たちの社会生活を取り巻く課題はより多様化・複雑化しています。これらを背景とし、官民を挙げた議論や取り組みが進む「働き方改革」。いつの時代も働く人にとって付加価値の高い製品・サービスを追求してきたコクヨだからこそできる「働き方改革」とは何か。その課題に長年にわたって向き合ってきました。

たとえば、1969年から社員が実際に働くオフィスを「生きたショールーム」(現、ライブオフィス)として公開し、オフィスにおける一歩進んだ働く姿を実践・提案する取り組みは、現在も継続しています。自社内の制度・環境面においても様々な取り組みを行い、2015年に在宅勤務導入(育児、介護、怪我など制約ある社員対象)、2016年には、ICT技術をトライアル導入するなど在宅勤務の物理的な環境整備を行い、働き方改革を推進するための知見を深めています。2018年は、社員が働く事にワクワクしながら「多様な働き方」を実現する、働き方改革につながる取り組み「ワクワク、スマートワーク」を3か月間実施しました。

コクヨは2020年までに、働き方改革につながる様々なチャレンジに取り組みながら、新しい働き方を社内に定着させ、「スマートワークで成長する」ことを目指します。また、こうした働き方改革を私たち自身が考え、試し、実践していくその経験が、今後のお客様への実りあるご提案に活かしてまいります。

#### 2030年 CO<sub>2</sub>排出量削減目標を策定

コクヨの事業活動を進めるうえで、地球資源の活用は必要不可欠ですが、それらを活用する企業として、地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題を全世界共通の課題ととらえ、全社を挙げて、環境負荷の削減又は低減に取り組んでいます。

2020年までの中長期環境行動計画に加え、2018年には、日本国内の連結対象会社をすべて含む「2030年 CO<sub>2</sub>排出量削減目標」を制定しました。2013年比で2030年にCO<sub>2</sub>排出量の26%削減を目指すとともに森林保全活動として毎年150ha程度の間伐を進め、6,000t-CO<sub>2</sub>以上の吸収量に貢献していきます。

#### 第2次中期経営計画方針「持続的な成長力の獲得 Smart & Sustainable Transformation 2021」をスタート

2019年度から、第2次中期経営計画方針『持続的な成長力の獲得Smart & Sustainable Transformation 2021』をスタートさせました。中長期の経営課題「低成長からの脱却」、目指す姿「Life & Work Style Company」の達成に向けて、第2次中期経営計画においては国内ファニチャー事業や海外ステーションナリー事業を中心に更なる成長を志向する他、国内ステーションナリー事業及びカウネット事業等を中心として構造改革に取り組んでまいります。これにより、今後の一層の成長可能性について検証を進め、2020年に開示予定の2030年ビジョンの中でどのようなポートフォリオで事業を進めるのかを示したいと考えています。

#### ステークホルダーの皆様へ

コクヨはこれまで、時代ごとに変化するお客様のご要望と真摯に向き合い、一つひとつ解決策を見出すことで百年以上の歴史を刻んできました。今、不確実な時代と言われ、さまざまな社会課題と会社の事業活動がますます複雑に絡み合う状況下にあっても、その姿勢が変わることはありません。

今後も、社会とお客様の課題に真摯に向き合う姿勢を大切に、新たな価値の創出にチャレンジし、持続可能な社会の実現に資する価値の提供に向けて全力を尽くしてまいります。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ コクヨのCSR

# CSRマネジメント

コクヨ創業者 黒田善太郎は、「事業は社会のために行うものであり、そこで得られる利益は貢献に対する報酬である」という言葉を残しています。創業から100年以上たった今も、創業者の精神を受け継ぎ、CSR活動を進めています。

### 考え方

#### 基本的な考え方

コクヨグループは1905年に、創業者 黒田善太郎が大阪で和帳の表紙店を開いたことから始まりました。創業者は、「越中（現在の富山県）の国の誉れになる」という志を持って、郷里から大阪に向かいました。この創業者の志は、「国誉」という商標を経て、現在の社名の「コクヨ」となり、グループ社員全員でこの志を継承し、事業を展開してきました。

2004年、社会及びグループの継続的な発展を期すため、「コクヨグループ CSR 憲章」を制定（2012年一部改定）しました。基本方針について、「お客様」「地域社会」「環境保全」「企業活動」「人権尊重」の5つのテーマに沿って明らかにしています。

※ 関連情報:「[コクヨグループCSR憲章](#)」

### CSR推進体制

コクヨグループでは、関連部門が連携し、グループ全体でCSR活動を推進しています。また重点課題については、環境委員会・中央安全衛生委員会などを運用し、各専門部署が中心となってグループ全体で組織的に取り組んでいます。今後も情報発信や対話を通じて、ステークホルダーとの調和を図りながら、社会及びグループの持続的発展を追求していきます。

### コクヨCSR憲章

コクヨグループは、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になります。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努めます。

#### お客様

1. すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていきます。
2. 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業を目指します。

#### 地域社会

1. 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

#### 環境保全

1. 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こします。
2. エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組めます。
3. 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。



## 企業活動

1. 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
2. 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことを目指します。
3. 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持します。

## 人権尊重

1. あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境を目指すとともに児童労働・強制労働を認めません。
2. 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人材がその能力を十分に発揮し、成長できる企業を目指します。

## ココヨグループ行動基準

ココヨグループでは、事業の海外展開に伴い、文化や価値観、法の解釈の違いなど、現地事情を踏まえながらも共通の行動基準を制定する必要があると考え、2012年8月にココヨグループ共通規定として「ココヨグループ行動基準」を制定するとともに、国や地域によって異なる商習慣や法令などを踏まえて補足を加えた「ココヨグループ行動基準ハンドブック」を作成しました。

### 行動基準(日本国版)

ココヨグループ行動基準は、ココヨグループが法令や規則を遵守し、社会倫理に従って企業活動を行うために、役員及び社員の基本的な行動の基準を定めることを目的としています。

#### 1. 法令及び社内規則の遵守と誠実な行動

わたしたちは、法令及び社内規則の遵守はもちろん、高い倫理観を持って誠実に行動します。

#### 2. 人権及び人格の尊重

わたしたちは、人種、民族、宗教、国籍、言語、性別及び障がい等による差別を行いません。  
わたしたちは、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントを行いません。  
わたしたちは、児童労働や強制労働を認めません。

#### 3. 地球環境の保全

わたしたちは、地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題から目を背けることなく、環境負荷の削減又は低減に取り組みます。

#### 4. 自由な競争及び公正な取引

わたしたちは、独占の禁止、公正な競争及び公正な取引に関する法令及び社内規則を遵守し、これらを逸脱する行為を行いません。

#### 5. 安心で信頼のおける製品及びサービスの提供

わたしたちは、安心で信頼のおける製品及びサービスの提供を通じて、お客様の満足を獲得し続けます。

#### 6. 会社資産の適切な取り扱いと知的財産の保護

わたしたちは、有形無形のあらゆる会社の資産を適切に管理、保全及び活用します。  
わたしたちは、他者の知的財産権を尊重します。

#### 7. 適正な情報管理及び財務報告

わたしたちは、会社の記録を誠実かつ適正に作成するとともに、業務上収集及び取得される情報をその重要度に応じた適正な手続きに則って管理及び報告を行います。  
わたしたちは、財務、会計及び税務に関する法令及び社内規則を遵守して会計処理と財務報告を行います。

## 8. 利益相反行為の禁止

わたしたちは、会社と個人との利益が相反する、あるいはそのおそれのある行為を行いません。  
わたしたちは、利益相反が懸念される場合には、上司に対してその旨を報告します。

## 9. インサイダー取引の禁止

わたしたちは、コクヨグループや他社の株式等の売買に関連してインサイダー取引及びそれを誘発する行為を行いません。

## 10. 接待や贈答の適切な運用

わたしたちは、ビジネス慣習から逸脱した接待や贈答を行いません。  
わたしたちは、公的機関の職員や政府関係者に対して違法な接待や贈答を行いません。

## 11. 外部からの不当な要求への対応

わたしたちは、外部からの不当な要求には一切応じません。



## ステークホルダーとの関わり

### コクヨのステークホルダー

コクヨグループは持続可能な社会の実現に向け、お客様・株主・取引先・地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えるため、積極的にCSR経営を推進しています。

### ステークホルダーとのコミュニケーションの例

ステークホルダー	主な対話の機会	2018年度の実施例
 お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様相談室の設置</li> <li>ウェブサイトのQ&amp;Aページ及び「お問い合わせ」フォームの運営</li> <li>各製品の情報提供</li> <li>ウェブサイトでコクヨ商品のお取り扱い店を検索できる「ディーラーズガイド」の運営</li> <li>各種イベント・セミナーの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">お客様の声を生かす仕組み</a></li> <li><a href="#">強カステープラー&lt;ラッチキス240&gt;の改良</a></li> <li><a href="#">ロンドン・ショーディッチ地区で、期間限定の「THINK OF THINGS」ポップアップストアを開催</a></li> <li><a href="#">「ほぼ日」主催の「第3回 生活のたのしみ展」に初出展</a></li> </ul>
 社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>労使間協議</li> <li>各種研修</li> <li>社内報</li> <li>社内イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">物流センター現場研修を実施</a></li> <li><a href="#">中国現地法人の人材育成</a></li> <li><a href="#">異業種人材との交流が視野拡大に繋がる「オープンチャレンジプログラム」</a></li> <li><a href="#">SST社員交流イベント「CROSS!!!」開催</a></li> </ul>
 取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力工場の監査</li> <li>各種ミーティング・イベントの開催</li> <li>展示会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">ACWアワードを発表</a></li> <li><a href="#">ファニチャー事業「協力工場会」を開催</a></li> <li><a href="#">ステーションナリー事業 協力工場の監査を実施</a></li> </ul>
 株主	<ul style="list-style-type: none"> <li>IR活動</li> <li>情報公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">株主優待制度</a></li> <li><a href="#">個人投資家向けIR「会社説明会、テープのり&lt;ドットライナー&gt;開発ストーリー」開催</a></li> </ul>

ステークホルダー	主な対話の機会	2018年度の実施例
<p>地域社会</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会貢献活動</li> <li>● 災害復興活動</li> <li>● 地域貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">テーマは「BEYOND BOUNDARIES」、16回目を迎えたコクヨデザインアワード2018</a></li> <li>● <a href="#">全国で開催されている「いす-1グランプリ」でコクヨチームが激走</a></li> <li>● <a href="#">中高生を対象にした絵画コンペティション「キャンパスアートアワード2018」</a></li> <li>● <a href="#">「小さなノートで大きな夢！」子どもたちに「夢」と「ノート」を手渡す</a></li> <li>● <a href="#">タタ記念病院でのアートセラピー</a></li> </ul>
<p>環境</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球温暖化防止活動</li> <li>● 省資源・リサイクル</li> <li>● 生物多様性への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">2018年の総括</a></li> <li>● <a href="#">「外来魚駆除釣り大会」「カヌーでヨシ原観察会」活動の広がり</a></li> </ul>

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 環境

### 環境経営マネジメントと第三者保証

地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題の解決を緊急課題と認識し、この課題解決に全従業員が英知を結集して行動を起こしていきます。

#### コクヨグループ環境ビジョン

「持続可能な社会」を構築するには、「循環型社会」、「低炭素社会」、「自然共生社会」に向けた取り組みを統合した活動を実施していく必要があります。「コクヨグループ環境ビジョン」は、堅持すべき「環境理念」と具体的な活動項目である「環境方針」で構成されており、方針は「地球温暖化防止」「省資源・リサイクル」「エコプロダクツの調達・開発・提供」「生物多様性」「法遵守と汚染の予防」「情報開示・コミュニケーション」「環境経営」の7つの項目としました。この「コクヨグループ環境ビジョン」を基に各事業会社がそれぞれの事業の特性に沿った目標を展開し、環境負荷低減に努めています。

### コクヨグループ環境ビジョン

環境理念

創業以来、継続してきた「商品を通じて世の中の役に立つ」という企業理念に基づき、持続可能な社会の実現のため、温暖化や資源枯渇、生物多様性保全などの地球環境問題を全世界共通の永続的課題と認識し、コクヨグループが率先し、事業活動に関わる様々な人達の英知を結集することで、この課題解決のため行動を起こす。

環境方針

	<b>地球温暖化防止</b>	低炭素社会の実現に向け、温室効果ガス排出量の大幅な削減に取り組みます。
	<b>省資源・リサイクル</b>	循環型社会の進展に向け、限り有る資源を有効利用し、Reduce・Reuse・Recycleに取り組みます。
	<b>エコプロダクツの調達・開発・提供</b>	商品ライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の開発やグリーン調達に取り組みます。
	<b>生物多様性</b>	生物多様性に配慮した事業活動を行うことにより、生態系に及ぼす影響の低減とその保全に努めます。
	<b>法遵守と汚染の予防</b>	環境関連法規はもとより、当社が同意した業界等の指針及び自主基準を順守し、環境汚染の予防に努めます。
	<b>情報開示・コミュニケーション</b>	積極的に環境情報を開示し、お客様・社外の皆様とのコミュニケーションを図り、環境保全活動に活かします。
	<b>環境経営</b>	全従業員が一丸となり、新たなエコビジネスモデルの開発に努めるなど、環境負荷の継続的改善と事業の発展に取り組みます。

#### 2030年 CO<sub>2</sub>排出量削減目標を策定しました。

従来の中期目標の範囲にアクタスを追加し日本国内の連結対象会社をすべて含む2030年目標を策定しました。

CO <sub>2</sub> 排出量削減目標	2013年 CO <sub>2</sub> 排出量	2030年 目標値	範囲
2013年比で2030年にCO <sub>2</sub> 排出量を 26%削減する	30,702t-CO <sub>2</sub>	22,720t-CO <sub>2</sub>	日本国内連結会社(※1) + コクヨKハート+ハートランド

※1 コクヨ、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、コクヨロジテム、コクヨサプライロジスティクス、コクヨマーケティング、コクヨエンジニアリング&テクノロジー、カウネット、アクタス、コクヨファイナンス、コクヨアンドパートナーズ、LmDインターナショナル





## 環境教育・啓発活動

コクヨグループは、社員の環境保全意識の向上、環境目標達成に必要な知識、事故・緊急時の対応や管理手法等の習得を目的に、ISO推進事務局が実施する環境関連法説明会、内部監査員の養成・スキルアップ研修のほかに各部門が独自で様々な環境教育を実施しています。

教育・訓練の種類	受講者数		
	2016年	2017年	2018年
環境一般教育	2,549	2,075	2,152
環境目標達成・法規制などに関する教育	53	311	233
事故・緊急事態の対応訓練	190	152	169
内部監査員	48	30	21
その他	256	273	322
計	3,096	2,841	2,897



グリーン購入法とクリーンウッド法対応説明会  
(ファニチャー事業本部)



内部監査員養成研修  
(ISO推進事務局)



緊急事態のテスト(流出)  
(コクヨMVP 鳥取工場)

### 一般のお客様向けに工場見学を実施しています。(コクヨ工業滋賀)



コクヨ工業滋賀では2014年からお客様とのコミュニケーションをより深めるため、ノート生産設備の工場見学ツアーを実施しています。工場見学ツアーでは、生産設備や環境対応設備の見学、品質へのこだわりを体験できるコーナーを用意しており、ここでしか買えない限定商品や琵琶湖のヨシを活用したリエデンシリーズの販売も実施しています。またお客様からは参加費を頂戴し、琵琶湖を中心とした環境保全活動に活用させていただいております。

2018年は計30回実施し、延べ1079人の方に参加頂きました。オープンより5周年となる2019年もイベント等を通して、たくさんのお客様とつながりを持てるよう運営していきたいと思っています。



## 内部監査と第三者 (ISO14001) 審査

コクヨグループでは内部監査を、事業会社内で実施する第一者監査、およびISO推進事務局が主体となり実施する第二者監査の2段階で実施し、特に法順守状況のチェックに注力しています。2018年は第一者監査を7月2日～7月31日、第二者監査を8月1日～8月31日、第三者 (ISO14001) 審査を11月26日～11月30日にそれぞれ実施しました。尚、2018年の第三者審査は更新審査でした。

### 内部監査

実施年	2016年	2017年	2018年
監査対象サイト	65	70	75
・第一者監査	50	55	60
・第二者監査	15	15	15
指摘事項	36	28	28
・軽微な不適合	8	12	8
・修正事項	28	16	20

### 第三者審査 (ISO14001)

実施年	2016年 (定期・移行)	2017年 (定期)	2018年 (更新)
審査対象サイト	19	20	29
ストロングポイント (特に優れている点)	0	0	1
グッドポイント (優れている点)	4	5	8
改善指摘事項 (軽微な不適合)	0	0	1
改善の機会	21	16	21

## 第三者審査の結果

ReEDENプロジェクト、結の森プロジェクトの生物多様性保全の取り組みが外部から複数表彰されていることに対してストロングポイントを頂きましたが、廃蛍光灯を処分の際に、収集運搬及び処分に関する契約締結のないままに業者に委託した配送センターがあり、本件について改善指摘事項 (軽微な不適合) を受けました。本指摘に対して、審査会社に「是正処置計画書」を提出し、受理されています。尚、当該配送センターはただちに契約を締結し対応は完了していますが、他の事業所で同様の事象がないか確認するため、契約書及び保管廃棄物の掲示について全事業所でセルフチェック及びISO推進事務局による臨時内部監査を実施する予定です。



ISO14001 審査の様子  
(コクヨKハート)



ISO14001 審査の様子  
(コクヨロジテム仙台配送センター)



ISO14001 審査の様子  
(コクヨマーケティング 立川オフィス)

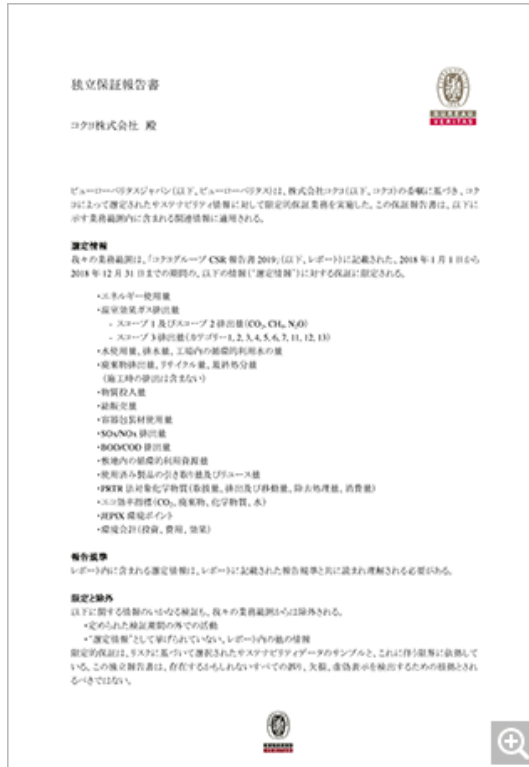
# 第三者検証報告書

コクヨグループの環境パフォーマンスデータに関して、その正確性・透明性・一貫性・妥当性・完全性について独立した立場から意見をいただくためビューローベリタスジャパンによる第三者検証を受けました。

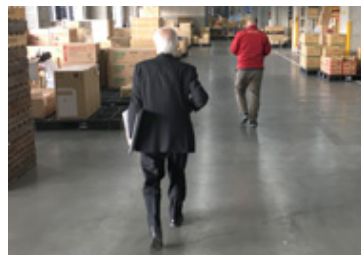
## 第三者検証の概要

2018年より、石見紙工業を追加したコクヨグループ32社(※1)の環境負荷データ及びSCOPE3の検証を受けました。また、国内:3カ所(コクヨ芝山工場、カウネット本社、コクヨサプライロジスティクス首都圏IDC、海外:1カ所(コクヨ-IKタイランド)においてデータ計測・管理方法に関する現場審査を実施しました。検証の結果、「評価できる点」として9件、「改善の機会」6件、「修正要求」32件、「明確化要求」30件の指摘を受けました。修正要求及び明確化要求については検証期間中に対応を完了しました。SCOPE3の検証では、カテゴリーによって集計範囲が「連結」と「連結及び関係会社」となっており、カテゴリーごとの集計範囲の明確化に関する指摘を受けました。今後は指摘事項を踏まえ、サプライチェーン全体を含めた情報開示の充実と精度向上に取り組んでいきます。

実施年	2016年	2017年	2018年
評価できる点	9	9	9
改善の機会	10	10	6
修正要求	18	26	32
明確化要求	27	21	30



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子  
(コクヨ芝山工場)



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子  
(コクヨサプライロジスティクス首都圏  
IDC)



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子  
(コクヨ本社)

※1 対象組織

	連結会社	関連会社
国内	コクヨ株式会社 カウネット、コクヨマーケティング、コクヨエンジニアリング&テクノロジー、コクヨ サプライロジスティクス、コクヨロジテム、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、LmDイン ターナショナル、アクタス、コクヨファイナンス、コクヨアンドパートナーズ	コクヨKハート、ハートランド、石見紙工業、コ クヨ北海道販売、コクヨ東北販売、コクヨ北 関東販売、コクヨ東海販売、コクヨ北陸新潟 販売、コクヨ山陽四国販売
海外	コクヨベトナム、コクヨ(マレーシア)、国営(上海)企業管理有限公司、国営商 業(上海)有限公司、国営家具(中国)有限公司、国営裝飾技術(上海)有限 公司、コクヨインターナショナルアジア、コクヨインターナショナル(マレーシア)、 コクヨベトナムトレーディング、コクヨカムリン	コクヨ-IK(タイランド)

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 環境

# 地球温暖化防止対策

コクヨグループは地球温暖化に対する緩和活動(温室効果ガスの排出削減と吸収対策)を強化していきます。

### 活動ハイライト

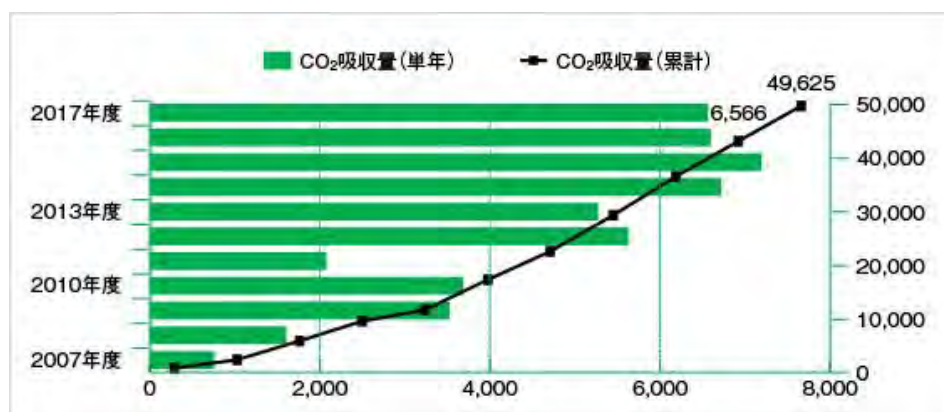
### 2030年 CO<sub>2</sub>削減目標策定

地球温暖化対策【緩和策】	
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	森林保全によるCO <sub>2</sub> 吸収
2013年比で2030年にCO <sub>2</sub> 排出量を26%削減する (日本国内連結会社(※1)+Kハート+ハートランド)	森林保全活動として毎年150ha程度の間伐を進め、6,000t-CO <sub>2</sub> 以上の吸収量に貢献する (結の森プロジェクト)

CO <sub>2</sub> 排出量削減目標	2013年 CO <sub>2</sub> 排出量	2030年 目標値	範囲
2013年比で2030年にCO <sub>2</sub> 排出量を26%削減する	30,702t-CO <sub>2</sub>	22,720t-CO <sub>2</sub>	日本国内連結会社(※1)+ コクヨKハート+ハートランド

※1 コクヨ、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、コクヨロジテム、コクヨサプライロジスティクス、コクヨマーケティング、コクヨエンジニアリング&テクノロジー、カウネット、アクタス

### 結の森のCO<sub>2</sub>吸収量推移



コクヨグループは低炭素社会実現に向け、地球温暖化に対する緩和活動(CO2排出量削減と吸収対策)を強化していきます。

2018年目標(※2) 従来範囲	2018年実績	評価
CO2排出量対前年比 +0.2%に抑制する	CO2排出量対前年比 ▲3.3%	○
消費エネルギー(売上高原単位):対前年比▲1.0%	消費エネルギー(売上高原単位):対前年比▲1.6%	○

## 2018年の総括

コクヨグループは2030年CO2削減目標を策定しました。  
2018年のコクヨグループ従来範囲(※2)のCO2排出量は、31,517トン(※3)でした。前年から1,060トン減少の3.3%削減となり、目標を達成しました。削減量の1,060トンのうち、790トンは排出係数の変動によるものでした。試算ではありますが、運用改善(320トン)と設備改善(460トン)による実質削減量は780トンですが、生産・統廃合で510トン増加したため、270トンの削減となりました。その部門別の状況は以下の通りです。

### オフィスの取組み

オフィスでは前年に比べてCO2排出量は440トンの削減となりました。空調運転方法やワークスタイルの見直し、「ノー残業デー」「早帰り」などの活動推進、LED照明への更新など節電対策に取り組んだことにより、電力使用量を15%削減し、CO2排出量は約800トン削減しました。また、営業活動においても公共交通機関の利用促進に努め、ガソリンの使用量削減に努めています。2018年はこれまでも実施していたクールビズ・ウォームビズをスマートビズとして年間を通じて実施しています。

### 工場の取組み

工場では前年に比べてCO2排出量は390トンの増加(国内470トン増加、海外80トン減少)となりました。  
生産増により前年に比べて650トン増加しましたが、製品型替え時間の短縮や生産設備の運用ルール of 徹底点検の実施、生産スケジュールの精緻化、エネルギーチェックによる無駄の削減などの運用改善により200トンを削減。また、設備のインバーター化や照明のLED化などの省エネ設備の導入により60トンを削減しました。

### 物流部門の取組み

物流(保管・出荷)は、前年に比べてCO2排出量は220トンの削減となりました。  
日々の省エネ活動の推進による運用改善や配送センターの照明の適正照度の見直しにより50トンを削減しました。  
また、照明のLED化を積極的に進め360トン削減しましたが、物流を取り巻く影響を受け、業務量が増加したことにより190トン増加しました。



大阪オフィス新館に設置されている太陽光パネル



滋賀工場に設置されている太陽光パネル



首都圏IDCに設置されているハイブリッド街灯

(※2) 従来範囲 コクヨ、ウネット、コクヨマーケティング、コクヨエンジニアリング & テクノロジー、コクヨサプライロジスティクス、コクヨロジテム、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、コクヨKハート、コクヨベトナム、コクヨ(マレーシア)、コクヨ-IK(タイランド)

(※3) 日本の電力のCO2排出係数は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく係数(2018年は電気事業者ごとの平成28年度実績及び平成29年度実績の実排出係数)、海外の電力のCO2排出係数は、持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)並びに世界資源研究所(WRI)が公開しているGHGプロトコルウェブサイト内の各国ごとの2012年排出係数を採用





## コクヨグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量

2018年から石見紙工業のデータ収集も開始しました。石見紙工業を加えたコクヨグループ32社(※4)全体での2018年のCO<sub>2</sub>排出量は45,231トンでした。石見紙工業分及びアクタスの新店舗、インド・パタルガンガ新工場の稼働開始により約3,000トンの増加しましたが、この増加分を除くと主力電力会社の排出係数の減少やグループ全体の削減活動により2017年と比較して920トンの減少となりました。

※ 関連情報:「[CO<sub>2</sub>排出量の推移](#)」

### 消費エネルギー(売上原単位)の推移



### コクヨグループ(32社)全体のCO<sub>2</sub>排出量の推移



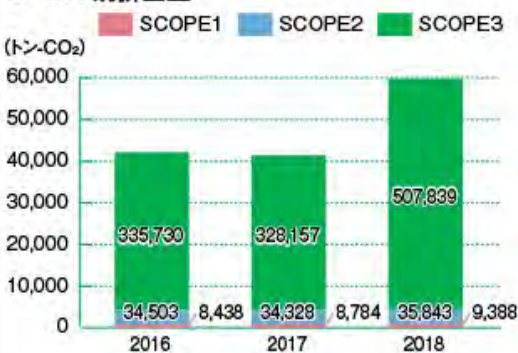
## SCOPE3データ精度の向上

近年、CDPをはじめ、企業が間接的に排出するサプライチェーンでの温室効果ガス排出量としてSCOPE3(製造、輸送、製品の使用・廃棄など)を管理し、対外的に開示する動きが強まっています。

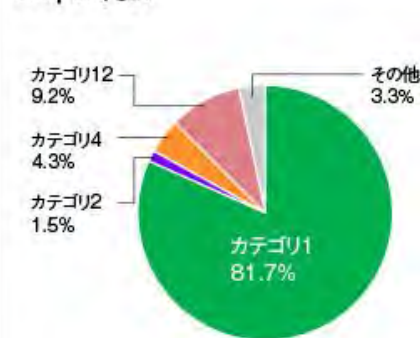
コクヨグループでも輸送分野など一部では取り組んでいましたが、2014年から環境省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に即した取り組みを開始しました。

2018年のサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量は553,070トンでした。そのうちSCOPE3が全体の約92%を占め、中でも「カテゴリ1の購入した製品・サービス」が約82%を占めています。2018年のSCOPE3排出量が約18万トン増えていますが、ステーションナリーの協力工場のデータ取得に努めた結果です。また、開示情報の信頼性確保のため、ビューローベリタスジャパンによる第三者検証を受けました。

### SCOPE別排出量



### Scope3内訳



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 環境

### 省資源・リサイクル対策

循環型社会の進展に向け、限りある資源を有効利用し、Reduce・Reuse・Recycleに取り組めます。

2018年 目標	2018年 実績	評価
廃棄物総量に対するリサイクル率の向上 ・事業所：96.8%以上 ・施工現場：82.7%以上	・事業所：96.6% ・施工現場：88.0%	× ○

#### 2018年の総括

2018年のコクヨグループ(32社)の事業所からの排出物量は、22,640トン(前年:20,409トン)、リサイクル率は96.6%(前年:96.8%)となりました。施工現場廃棄物量は3,300トン(前年:3,750トン)、リサイクル率88.0%(前年:82.7%)でした。施工現場廃棄物の処理に関する元請責任が明確化され、排出事業者の責務がますます強化されています。施工現場で加工する部材の発注方法の見直しなどによる廃棄物の抑制に努めました。施工現場廃棄物は均一ではなく、いくつもの種類の廃棄物が混在しているためリサイクルが困難なケースが多いのですが、排出抑制とともに、今後も継続して廃棄物の適正処理と中長期目標であるリサイクル率100%を目指していきます。

#### オフィスの取組み

2018年のオフィス部門における排出物量は760トン(前年:1,248トン)、リサイクル率は97.6%(前年:90.5%)でした。オフィスでできることは限られていますが、分別廃棄の徹底、ペーパーレスワークの推進などに努めています。

#### 工場の取組み

2018年の工場部門における排出物量は11,062トン(前年:10,407トン)、リサイクル率は96.3%(前年:96.3%)でした。日本国内のコクヨグループ自社工場の産業廃棄物については既にゼロエミッションを達成しています。また、海外工場においては、2018年のリサイクル率は85.7%でした。各地で異なるリサイクル事情を考慮するとともに、廃棄物そのものの排出の抑制とリサイクルに努めていきます。

#### 物流部門の取組み

2018年の物流部門における排出物量は10,818トン(前年:8,754トン)、リサイクル率は96.8%(前年:98.4%)でした。物流工程で生じる製品梱包で使用した段ボールや木製パレットの修理によるリユースを行っています。2018年は26トンの段ボール・木製パレットをリユースしました。今後も積極的に資源の有効利用を行っていきます。

#### 使用済み商品のリユース・リサイクル

商品をお届けした際に、お客様のもとで不要になった使用済み商品を引き取り、状態に応じてリユース・リサイクルする取り組みを続けています。コクヨジテムでは2018年にオフィスデスクや事務用イスなどの使用済み商品を約2,200トン引き取り、そのうち約70トンのリユースし、リユースできないものは解体・分別してリサイクルしました。



デスクの解体・分別



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 環境

# 法順守と汚染の防止

環境関連法規はもとより、当社が同意した業界などの指針及び自主基準を順守し、環境汚染の予防に努めています。

### 2018年の総括

コクヨグループでは現在、日本国内においては、28の環境法令が該当しています。毎年6月に各法令の順守評価を実施しています。2018年11月に実施したISO14001更新審査にて、収集運搬及び処分に関する契約締結のないままに廃蛍光灯の処分を業者に委託した配送センターがあり、本件について改善指摘事項（軽微な不適合）を受けましたが、当該配送センターはただちに契約を締結し対応は完了しています。

部門によっては担当者交代による引継ぎ不足や順守評価を満たすための担当者の力量不足が散見されるため、2019年は法規制説明会の頻度を増やすなど担当者の力量向上に努めます。

### グリーン購入法とクリーンウッド法の対応を強化するため協力工場説明会を実施しました。

現在でも違法伐採と疑われる木材取引が世界で相当量流通していると言われてしています。違法伐採は木材生産地の環境破壊にとどまらずさまざまな問題を引き起こす可能性があります。

このような状況の中、日本又は原産国の法令に適合して伐採された木材及びその製品の流通及び利用を促進することを目的で「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」（通称「クリーンウッド法」）が2016年5月20日に公布され、2017年5月20日に施行されました。また、それにとともに、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（通称「グリーン購入法」）」も改定されました。木材の合法性を確認するにはサプライチェーン特に協力工場との情報交換が不可欠です。そこで、2018年5月10日、木材製品に関連する協力工場に対して説明会を実施しました。

### 上海工場（中国）、カムリンパタルガンガ工場（インド）で外部審査機関による消防法監査を受けました。

各国で消防法に関する規制が強化されてきています。大規模火災が発生すると近隣に甚大な被害をもたらすだけでなく操業停止など事業上のリスクも非常に高いものとなります。

2018年、国営商業（上海）有限公司・上海工場とコクヨカムリン・パタルガンガ工場にて、外部審査機関による消防法監査を受けました。両工場とも設備面の不備など複数の指摘を受けたため、順次改善していく予定です。2019年は他の海外工場での実施を検討しています。



グリーン購入法・クリーンウッド法協力工場説明会の様子



上海工場での監査の様子



パタルガンガ工場の監査の様子

### 製品含有化学物質管理の推進

コクヨグループは、法規制物質の不使用はもとより、環境や人体への悪影響が懸念される物質の使用状況を管理し、情報提供することは、商品を提供する事業者すべてに共通する社会的責務であると考えます。一方、従来の化学物質固有の危険有害性のみに着目したハザードベース管理から科学的手法に基づいたリスクベース管理へのシフトが明確となってきています。こうした世界的な流れを受けて、2014年に、ハザードベースでの物質リストの特定をし、2015年はこの物質リストを基に優先順位の高い製品から順次調査を実施しました。2017年は調査結果から得られた情報を基に含有物質の有害性や曝露状況を評価し、「製品含有化学物質管理基準ガイドライン【ステーションナリー編】」を作成しました。2018年は化学物質管理基準をより適切に運用していくために社内にて化学物質管理講習会を実施し、化学物質に関する法令順守や安全性情報の開示等のお客様の要望に応じていくための力量の向上に努めています。



蛍光X線分析装置で重金属の有無を確認

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 環境

### 環境に配慮した製品・サービスの開発

商品のライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術やグリーン調達に取り組んでいます。

2018年 目標	2018年 実績	評価
エコバツゼロの維持	維持できている	○

#### ■ エコバツゼロを継続

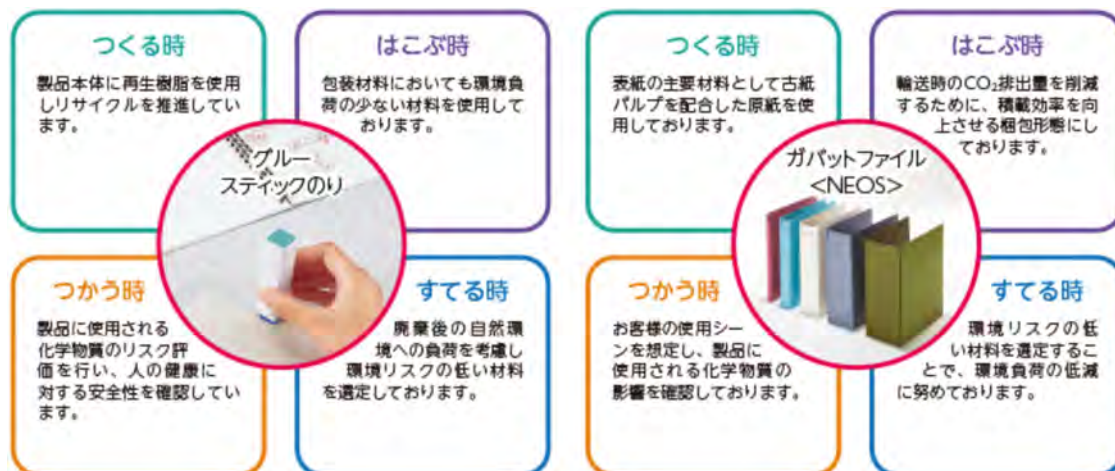
コクヨグループでは「2008年版総合カタログ」から商品のライフサイクルの各段階（「つくる時」「はこぶ時」「つかう時」「すてる時」）において、そのいずれかひとつでも環境配慮が十分でない自社商品について、「エコバツマーク」を表記し、それを3年間でゼロにする取り組みを行い「2011年版総合カタログ」で「エコバツゼロ」を達成しました。「2019年版総合カタログ」でも引き続きゼロを継続しています。



エコバツマーク

#### ■ 2018年新商品事例

##### ■ステーションナリー編



##### ■オフィス家具編



## 商品CO<sub>2</sub>の見える化

コクヨグループは、商品が生まれてから廃棄・リサイクルされるまでのCO<sub>2</sub>排出量を把握して、商品の環境負荷削減を進めています。その一環として、商品のCO<sub>2</sub>排出量を「見える化」するカーボンフットプリントの手法に着目しました。お客さまに「環境負荷の少ない商品」を提供できるよう、CO<sub>2</sub>の“見える化”に取り組みました。

詳しくは以下のページをご参照ください。

→ ホームページ「[商品CO<sub>2</sub>の見える化](#)」

## 国産材・地域材の利用

日本の国土面積の約67%を占める森林は、土砂の流出防止や水源涵養と呼ばれる保水機能、CO<sub>2</sub>の吸収作用などの役割を果たしており、再生産可能な資源でもあります。しかし、その中の約4割に当たる人工林の多くは、間伐などの手入れが遅れ、前述のような森林の多面的機能が発揮できずにいます。

コクヨは1998年から間伐材家具の開発に取り組み、2000年より販売しています。オフィスで積極的に国産材(間伐材)を使うことにより、新しい木材需要を喚起するとともに、森林と生きる持続的社会的実現を後押ししたいと考えています。



BS+デスクシステム



記載台



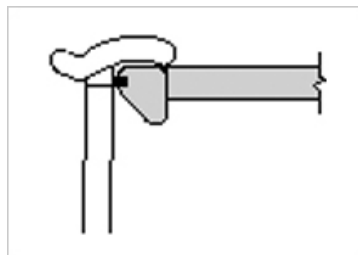
UUチェア

## プロトコルカウンター

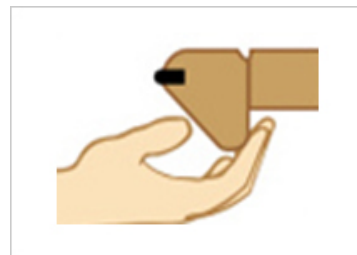
全国の地域材を使いたいというニーズにも応えられるよう、開発された窓口カウンターです。grafデコラティブモードナンバーズリーのデザインにより、すっきりとモダンなテイストに仕上げています。天板のエッジに杖倒れ防止や車イス利用者用グリップなどを採用したユニバーサルデザインにも配慮した製品です。



ウッドデザイン賞2017を受賞しました



天板に付いている杖の引っ掛け



車椅子の方のための手触りの良い天板手掛かり

## EFカウンター地域材幕板タイプ

将来的な組織変更や運用に合わせて機能拡充が可能な施工型カウンターです。高齢者や車イス利用者にも配慮した、ユニバーサルデザイン仕様です。幕板のみを地域材に対応することによって、標準タイプと同じ機能やバリエーションを実現しています。プロトコルカウンター同様、天板のエッジに杖倒れ防止や車イス利用者用グリップなども採用しております。



接客時のプライバシー確保とアメニティー向上にこだわった施工型カウンター



杖を立て掛けても倒れにくい天板エッジ



車イス対応カウンターは握りやすい形状の天板エッジ



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 環境保全

### 生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進

生物多様性に配慮した事業活動を行うことにより、生態系に及ぼす影響の低減とその保全に努めます。高知県の四万十川流域の森林保全活動や、滋賀県の琵琶湖環境の保全活動を積極的に推進しています。

#### コクヨグループ木材調達基本方針

コクヨグループは、2011年に「木材調達基本方針」を制定し、持続可能な森林資源を原料とすることを明確にしました。コクヨグループは創業時より紙をはじめとした森林由来資源を活用して事業を展開・発展してきました。我々は、地球温暖化の抑制や生物多様性など森林の果たしてきた役割を認識し、資材の調達に関して合法性・透明性・持続可能性に配慮しながら、今後も森林資源との調和ある発展を目指します。

#### コクヨグループ木材調達基本方針

当社グループは、以下の方針に基づく森林由来資源の調達を推進するとともに、その継続的改善に努めます。

1. 木材貿易における違法伐採・違法取引問題を認識した、より透明性の高い資材の調達
2. 森林資源の持続的利用のための、より適切なサプライチェーンからの資材の調達
3. 地域における森林の社会的な価値・役割の認識に基づく、その維持・保全に配慮した資材の調達

#### 「合法性・持続可能性に係る事業者認定」を取得

グリーン購入法改訂に伴うJOIFA(日本オフィス家具協会)の「合法性・持続可能性に係る事業者認定」を取得しています。この実施規定に基づき、帳票管理や責任者選任、使用実績報告など合法性・持続可能性が証明された木材、木材製品の使用・販売推進に努めています。



#### 森林認証商品

コクヨは2003年よりFSC®・COC認証を取得しています。FSC(Forest Stewardship Council®森林管理協議会)とは、国際的な森林認証制度を行う第三者機関の一つで、森林環境を適切に保全し、地域の社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を推進することを目的としています。また、COC認証とは、Chain-of-Custodyの略で、加工・流通過程の管理の認証です。コクヨグループではコクヨ・カウネット・コクヨ工業滋賀がFSC®・COC認証を取得し、コピー用紙・ノートなどのFSC®認証製品を販売しています。2016年にはPEFC・COC認証も取得しました。PEFC(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)とは、各国・地域で作成された森林認証基準を相互承認する団体です。

コクヨグループでは持続可能な森林資源利用のため認証商品の拡大に努めていきます。(FSC® C004748)



責任ある森林管理  
のマーク



PCカラー用紙



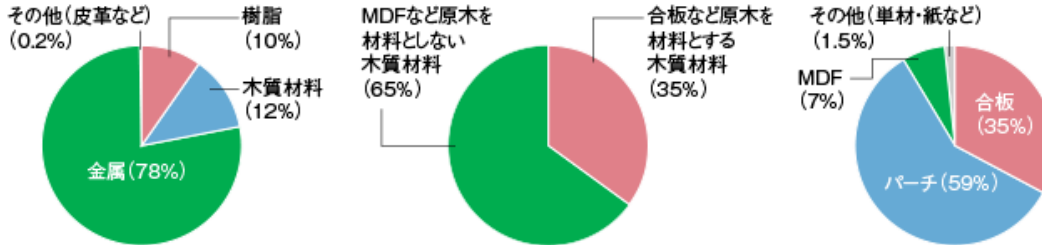
ヨシコピー用紙



FUBI

## 木材利用状況

2018年のファニチャー製品に利用する木質材料は約7,400トンでした。これは全原材料(梱包材除く)の12%に相当します。この木質材料の内、35%が無垢材や合板など「原木を材料とする木質材料」で、65%が間伐材、廃木材、未利用材及びその二次加工品である木質ボード(MDFやパーティクルボード)など「原木を材料としない木質材料」となっています。これらの情報はJOIFA(日本オフィス家具協会)へグリーン購入法の合法木材事業者認定の年別取扱実績として毎年報告しています。また、JOIFA木質表記ガイドラインに沿って「原木を材料とする木質材料」の樹種を把握するよう努めています。



## 木材利用実績調査

コクヨではファニチャー製品に利用する木質材料の樹種、取扱量、原産国・地域を毎年、調査しています。ただ、市販部品等に関しては、原産国の特定は困難を極めておりますが、持続可能な資源利用のため、引き続き把握に努めていきます。

樹種名	材形状	取扱量(m <sup>3</sup> 換算)	原産国、地域等
アッシュ	単材、突板	6	USA、カナダ
アユース	突板	2	イタリア、カメルーン、中国
ウォールナット	単材、突板	6	USA、カナダ
オーク	単材、突板	75	USA、カナダ
カパール	単材、合板	22	マレーシア
スギ	単材、集成材	107	日本
セン	単材	1	日本
タモ	単材、集成材、突板	1	ロシア、日本
チーク	単材、突板	1	USA、カナダ
チェリー	単材、突板	70	USA、カナダ
ハードメープル	単材、突板	30	USA、カナダ
パイン	単材、集成材	81	チリ、ニュージーランド
ビーチ	単材、合板	38	クロアチア、ドイツ、フランス
ヒノキ	集成材	363	日本
ファルカータ	合板	170	インドネシア
ブナ	単材、突板	141	クロアチア、ドイツ、フランス、USA、日本
ホオ	集成材	1	日本
ポプラ	単材、合板	598	USA、カナダ、中国
メランチ	合板	65	インドネシア、マレーシア
ユーカリ	合板	690	ベトナム、中国
ラワン	合板	880	インドネシア、マレーシア
合計		3,347	

※サプライヤーから伝達された情報を集計。MDFなど原木を材料としない木質材料は除く。  
 ※原産国・地域などが特定されている樹種のみ開示しています。



## 結の森プロジェクト

2006年、コクヨは高知県四万十町大正地区の民有林を「結の森」と名付け、「人工林の再生」と「自然環境と地域社会の再生」をテーマに、間伐材の有効活用を中心とした森林保全を開始し、2007年よりFSC(Forest Stewardship Council®森林管理協議会)の森林認証を取得しています。(FSC® C004748)

結の森は現在、対象面積は5,425ha、累計間伐面積が1,666haまで拡大しています。また、2007年より、高知県から「CO<sub>2</sub>吸収証書」が交付されており、2017年度単年では6,566t-CO<sub>2</sub>、累計では49,625t-CO<sub>2</sub>になりました。(期間:2006年4月~2018年3月)2018年12月に結の森プロジェクトは「生物多様性アクション大賞 特別賞 グリーンウェイブ賞」を受賞しました。2017年には「ウッドデザイン賞2017」を受賞しており、2年連続の受賞となりました。



生物多様性アクション大賞2018 受賞者

※ 関連情報:「[外部からの表彰・評価](#)」

## 高知県から「CO<sub>2</sub>吸収証書」が授与されました

2018年7月30日、高知県庁にて、高知県 林業振興・環境部 田所部長よりコクヨ分:6,081t-CO<sub>2</sub>、カウネット分:485t-CO<sub>2</sub> 計6,566t-CO<sub>2</sub>分の「CO<sub>2</sub>吸収証書」が授与されました。田所部長より「長年にわたり、環境保全・森林整備・産業振興・高知県のPRなど、さまざまな面で大変貢献していただいている」と感謝の言葉をいただきました。

尚、6,566t-CO<sub>2</sub>は、コクヨグループの2018年のCO<sub>2</sub>排出量 45,231t-CO<sub>2</sub>の約15%に相当する量となります。森林保全のみならず地球温暖化防止の観点でも重要な取り組みとなっています。

## FSC®認証を取得しています

結の森は2007年よりFSC(Forest Stewardship Council®森林管理協議会)の森林管理認証を取得しています。2018年9月6日~7日に定期審査が実施され、引き続きFSC®認証を継続しています。(FSC® C004748)



CO<sub>2</sub>吸収証書の授与



CO<sub>2</sub>吸収証書の授与



FSC® 審査の様子

## 間伐の効果を定期的に監視しています

森林保全活動を行う上で必要 不可欠なのは、間伐効果を「見える化」することです。活動の効果を長期的に監視していくため、四万十町森林組合、四万十高校、高知県・四万十町の職員の皆さんと共同で、年に一度のモニタリング調査を実施しています。

2018年11月22日、12度目となる植生調査を実施しました。植生調査では、特定の2地点において調査を継続しています。

※ 関連情報:「[四万十高校生によるレポート](#)」

## 間伐材の有効活用

間伐材の有効活用のために、コクヨでは2000年より地元の四万十町森林組合と協働で間伐材家具を製造・販売してきましたが、通販会社のカウネットも2007年から「結の森」ブランドの商品として文具を中心に販売を開始し、2018年現在で12品番になっています。カウネットでは活動への理解と賛同者を増やすため、お客様のポイントを結の森の間伐材に寄付する仕組みを2008年から実施しており、本年も約100件のお申し込みがありました。加えて、2011年2月より「結の森1%寄付プロジェクト」をスタートさせ、現在も継続しています。これは「結の森」商品の売上の一部を公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付するというものです。



モニタリング活動参加者



間伐材利用をプレゼンテーション



カウネット「結の森商品」

## ReEDENプロジェクト

コクヨ工業滋賀は、人々の命を支え、多くの生き物たちのにぎわいの場所となっている琵琶湖の近くで操業していることから、積極的な環境保全活動を行ってきました。中でも特に力を注いでいるのはヨシの活用。ヨシはCO2の吸収だけでなく、その成長過程で窒素やリンを吸い上げて水を浄化する働きを持ち、また琵琶湖に棲む生き物のすみかとしてなくてはならない植物です。かつては、よしずや屋根葺き材料などに利用されていたヨシですが、生活様式の変化とともにその活用先を失い、手入れのされなくなったヨシ原は荒れていました。そのようなヨシの活用促進に取り組み、現状を広く知ってもらうことを目的に2007年11月に「ReEDEN(リエデン)プロジェクト」がスタートし、11年になります。2018年は「しが生物多様性大賞 大賞(※1)」、「滋賀県低炭素社会づくり賞(※2)」、「日本水大賞 経済産業大臣賞(※3)」をそれぞれ受賞しました。このように「紙製品を製造する地元企業として、私たちが中心になって取り組まなくては」という想いが評価され、活動も着実に広がっています。

(※1)(※2)(※3)関連情報:「[外部からの表彰・評価](#)」

### ヨシを活用するという切り口から琵琶湖を守る

これまで培った生産技術や製紙会社との開発力を生かし、ヨシをコピー用紙やノートなどの工業製品の材料として使用し、リエデンシリーズとして市場に見合った価格で販売。さらに、ヨシパルプ100%の名刺やヨシ筆ペンなどの高付加価値商品や、2014年には琵琶湖や滋賀の観光、特産品をテーマにしたお土産文具として「びわこ文具」シリーズを発売、また滋賀県立琵琶湖博物館と製品を共同開発するなど、ヨシ活用による環境貢献への市場を創造しています。また、売上の一部を地元の環境 体に寄付し、ヨシの保全活動に役立てています。



リエデンシリーズ



びわこ文具



びわこテンプレート

### 地域社会の一員として、ヨシで琵琶湖を守る仲間の広がり

「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」は2009年にコクヨ工業滋賀が事務局となり設立しました。このネットワークはさまざまな企業、 体がゆるやかに繋がる連携の中で、琵琶湖の自然環境の保全に貢献することを目的としています。設立当初、数社でスタートしたネットワークも現在130社となり、多くの仲間が賛同する組織へと広がりを見せています。主な活動は、琵琶湖の生態系、水環境に大切な役目を果たしているヨシ原の保全活動です。当初はコクヨ工業滋賀の社員数人からスタートしたこの活動も、今では地元環境 体と産学官が集い、数百人が参加する活動へと大きく広がっており、これまでに延べ4500名を超える仲間がヨシ刈りに参加されました。次の試みとして、「ヨシ原のバイオマス調査」を研究者・滋賀県と協働し、生物量・炭素量等の調査をすることで、これまでの活動成果を実証していこうと考えています。これらの活動の様子は、ネットワーク通信で、各分野の専門家による自然環境の話題や会員の活動の紹介などとともに配信しており、より仲間意識を深めています。

### 「外来魚釣り大会」「カヌーでヨシ原観察会」 活動の広がり

様々な異業種の企業・ 体が集まる「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」は、年々活動の場を広げています。冬場のヨシ刈りが終わり春を迎えるとヨシ原では新芽が生長を始めます。そんなヨシ原周辺で2011年から「外来魚駆除釣り大会」を開催しています。琵琶湖の固有種であるホンモロコやニゴロブナなどを脅かすブラックバス、ブルーギルを駆除することが目的です。ネットワーク各社の家族と一緒に楽しみながらの環境活動です。回を重ねる毎に参加者も増え、昨年は160名ほどの方が集い、子供たちと一緒に琵琶湖の生態系保全に貢献しています。また、2014年からスタートした「カヌーでヨシ原観察会」は、うっそうと茂る夏のヨシ原で、迷路になった水路をカヌーに乗って湖面から観察する企画です。自ら刈ったヨシ原をカヌーに乗って散策すると、いつも参加者の歓喜と驚きの声が響いています。このような四季折々の活動は、体験を通して自然の大切さを肌で感じることができ、豊かな琵琶湖の環境を守っていくことの大切さを伝える絶好の機会となっています。



外来魚駆除釣り大会



カヌーでヨシ原観察



西の湖ヨシ刈り風景



## ダイバーシティの推進

企業が成長し、発展し続けるために不可欠な取り組みとしてダイバーシティを推進しています。「社員一人ひとりが本来持っている能力を発揮するため、さまざまな境遇や価値観を認め合い、多様な働き方を実現できる環境をつくりあげていくこと」として、取り組みを進めています。

### 考え方

#### ダイバーシティの基本的な考え方

「社員一人ひとりが本来持っている能力を発揮するため、さまざまな境遇や価値観を認め合い、多様な働き方を実現できる環境をつくりあげていくこと」として、下記4つの基本テーマに添って取り組みを進めています。

<b>ダイバーシティに取り組む意義の共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 働きやすい風土の実現に向けた意義の共有</li> <li>■ 能力を生かす風土の実現に向けた意義の共有</li> </ul>	<b>ワークライフバランスの実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 仕事と私生活の両立ができる環境づくり</li> <li>■ 生産性の高い働き方の実現</li> </ul>
<b>制度構築・浸透</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 柔軟な働き方を実現する制度づくり</li> <li>■ 諸制度の社内浸透</li> </ul>	<b>多様な人材の活躍支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国籍・人種・性別・年齢・宗教・学歴などに関わらず、多様な人材の活用</li> <li>■ 女性活躍推進</li> </ul>

### 制度

ダイバーシティ推進の一環として仕事と出産・育児・介護の両立がしやすい環境を整えるため、法定以上の制度の充実を図っています。(下線部は法定以上)

#### 育児・介護支援を目的とする主な諸制度※

産前産後休暇	産前6週間(多胎妊娠の場合14週)、産後8週間
配偶者 出産休暇	配偶者の出産時に認められる休暇、 <u>1回につき2日</u>
育児休業	<u>子どもが満2歳に達する日まで(4月生まれの場合に限り満2歳の4月末日まで)</u>
子の看護休暇	小学校就学始期まで、1年間に5日、2人以上の場合1年間に10日まで(半日単位での取得も可)
介護休業	要介護者1人につき、 <u>通算183日まで</u> (3回まで分割取得可)
介護休暇	要介護者1人につき、1年間に5日、2人以上の場合1年間に10日まで(半日単位での取得も可)
短日・短時間勤務	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 育児：<u>子どもが小学校3年修了時まで</u></li> <li>● 介護：要介護者1人につき3年まで</li> </ul>
在宅勤務	1日単位(年間52回まで)または時間単位での取得が可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 育児：<u>子どもが小学校3年修了時まで</u></li> <li>● 介護：最長3年</li> </ul>
再雇用	<u>結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤・留学・ボランティア・転職、及びその他会社が認めた事由により退職した正社員が対象</u>

※ コクヨ及び主要子会社の制度(原則フレックス勤務は全社員利用可能。コアタイム設定の無いフレックスタイム制度を導入)

※ 関連情報「[育児休業・介護休業取得者数](#)」





## コクヨグループの障害者雇用

コクヨの障害者雇用の歴史は1940年にさかのぼります。現在の本社エリアにあった今里工場に、大阪市立聾唖学校（現在の大阪府立中央聴覚支援学校）の生徒を採用したのが最初です。

コクヨグループにおける障害者雇用の転換になったのが、2002年に発表された事業構造改革プラン。コクヨ分社化によって生まれる個々の子会社が障害者雇用にどう対応するかが検討され、2003年9月に特例子会社として「コクヨKハート」が設立されました。さらに2006年12月、知的・精神障害者の雇用を目的としたハートランドが設立されました。

コクヨグループにおける障害者雇用率は、2018年8月31日現在で2.29%となっています。

## コクヨグループ特例子会社（コクヨKハート・ハートランド）紹介フェアを開催

コクヨKハートとハートランドは、10月3日～19日にわたり、大阪本社・梅田オフィス・東京品川SSTオフィス・霞が関オフィスにて、「こんなこともやっています！コクヨKハート・ハートランド」と題したフェアを開催しました。ダイバーシティ経営企業である両社では、障害がある多くの社員がさまざまな業務に適材適所で活躍しています。フェアでは、両者のメンバーが、コクヨの障害者雇用の歴史や障害者の法定雇用率の現状、コクヨKハート・ハートランドの業務内容や取り組みを、訪れたグループ社員に説明しました。



## 企業の枠を越えた取り組み

ダイバーシティを推進するために、企業の枠を越えた連携も図っています。

## イクボス企業同盟に参加しています

ファザーリングジャパンが発起人であるイクボス企業同盟に2014年12月の発足以来参加しています。

部下が育児や介護、病気などで時間制約のあることを理解しながら、社員一人ひとりの能力を生かし、組織として成果を出すためには、マネジメントの意識改革が不可欠です。イクボス企業同盟に参画することにより、同じ課題意識を持つ先進企業と知見を共有し、自社のダイバーシティマネジメントのあり方や働き方、職場風土を見つめ直す機会にしたいと思っています。参加企業間の協働により、新しい時代の理想の上司（イクボス）像を考え、育成していくとともに、新しい「働き方」を提案する企業として、お客様の課題解決にも繋げていくことを目指します。



## 「ダイバーシティ西日本勉強会」での活動

関西の企業約50社が集まる「ダイバーシティ西日本勉強会」に参加し、情報共有やネットワーク構築を行っています。さまざまな企業のダイバーシティ推進担当者が集まり、働き方改革や、障害者の活躍支援、育児・介護の両立支援などのテーマで意見交換しながら、学んだことを自社の取り組みに生かしています。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

# 人材育成

### 考え方

社員のモチベーションや創造性を引き出すことを目指し、人事制度における目標設定と評価の仕組み・手法を変化させることに取り組んでいます。

### 会社の成長と社員一人ひとりの成長を繋げる環境整備へ

コクヨグループでは国籍・人種・性別・年齢・宗教・学歴等に関係なく活躍でき、そのパフォーマンスに対して処遇できるよう、仕組みづくりと環境整備を進めてきました。

2015年10月にスタートした第一次中期経営計画「価値創造にこだわる自己改革～Value Transformation 2018～」では、顧客本位にこだわった価値創造を実現する“運営モデルの改革”に取り組み、“人と組織の関係性”に変化を起こし、社員のモチベーションや創造性を引き出すことにチャレンジしてきました。2019年1月にスタートした第二次中期経営計画「持続的な成長力の獲得 Smart & Sustainable Transformation 2021」においても、これまでの取り組みに磨きをかけていきます。

#### 【人と組織の関係性に変化を起こす3つの取り組み】

- (1) 目標設定の仕組みの変更
- (2) 評価の仕組みの変更
- (3) 評価から処遇への反映をわかりやすくすること

第一次中期経営計画を受けて、目標設定の仕組みを、社員一人ひとりがこれまで以上に取り組むべき目標を理解できるような仕組みとなるよう、取り組んできました。

これまでの、上司が目標を一方向的に伝えるコミットメント型コミュニケーションでは、各社員が目標を十分に理解できないまま、目標が設定されがちでした。この新たな仕組みでは、上司と部下が「なぜこの重点テーマに取り組むべきなのか」「それを受けて自分はどんな目標を設定したいのか」という対話を繰り返すコンセンサス型コミュニケーションに変えていきます。

また、経営・上位マネジメント層は、目標設定に関するワークショップを開催し、「今回実現できたこと」、「変化を起こせたこと」などを共有し、次期の目標設定に向けた課題の気づきを得ています。この新たな目標設定の仕組みがさらに定着するよう、今後も取り組みを推進していきます。

一方、評価の仕組みについては、相対評価から絶対評価へと変更し、評価から処遇への反映をよりわかりやすくしました。社員それぞれが目標設定時に「いつまでに・何を・どこまで達成すべきか」というように、具体的に達成すべき成果を定め、その成果の達成度にもとづき、評価と処遇が決定されるようになりました。

### 人材育成の体系

コクヨグループでは社員一人ひとりの能力を最大化するために、「現場」「フィードバック」「研修」の3つの柱を基軸とした計画的な個別育成を推進しています。研修では、ビジネスパーソンにおける各ターニングポイントでの階層別研修を中心に、選出研修・自由選択研修など、多様な能力開発の機会を提供し、挑戦する社員を強くサポートしています。



## 人材育成の取り組み

社員一人ひとりが生き活きと働き、チャレンジを繰り返し、成長を実感しながら、持続的に顧客価値を創出することを目指して、人材育成に取り組んでいます。

### 2018年度コクヨグループ入社プログラム

2018年4月2日、コクヨグループ新入社員の入社プログラムが、東京品川SSTオフィスと品川オフィスで開催されました。入社2年目の社員の案内によるオフィス見学や、コクヨグループ役員と連携会社社長とのランチミーティング、ステーションリー事業本部デザインセンターの監修によるメッセージツリーの作成など、充実した一日となりました。社員から新入社員への歓迎メッセージも約300枚寄せられ、コクヨの温かな雰囲気が新入社員にも伝わるイベントになったと思います。



### 異業種人材との交流が視野拡大に繋がる「オープンチャレンジプログラム」

オープンチャレンジプログラム（以下OCP）は、コクヨグループが参加している異業種研修です。参加者は、グループ内で手挙げ式の社内募集をしています。OCPの目的は社員の視野の拡大（実力の自覚）、今後のキャリア形成に必須の知識・スキル・マインドの獲得、仲間づくり（社外ネットワークの構築）です。研修プログラムは参加各社の事務局が意見を出し合い、高品質なプログラムを厳選していて、参加者アンケートでも満足度の高い結果となっています。特にコクヨと違った価値観に触れ合え、違う業界・業種の「異業種の人材との交流」が大きな魅力で、貴重な人脈形成の機会になっています。



### 物流センター現場研修を実施

ステーションリー（ST）事業に関わる77名のコクヨ社員が、首都圏、中部、近畿の物流センター3拠点で、延べ9日間にわたる現場研修を行いました。災害時など万が一の際にステーションリー事業の物流機能を担うコクヨサプライロジスティクス（株）の社員だけでなく、ST事業全体で応援できる体制をつくりたいとの発想から実現したものです。研修では、参加メンバーに、需要期の応援に向けた作業を体験してもらい、同時に、現場で発生するさまざまな問題を共有してもらい、アンケートを実施。今後の改善に繋がっていきます。



## 中国現地法人の人材育成

### ■ 2018国営中国優秀社員合宿

2018年5月末、国営中国で優秀社員に選ばれた14名が上海に集まって2泊3日の合宿を行いました。合宿では、国営中国の価値観について議論を行い、実際に職場で発生した事例を全員で話し合ったりするなどして、価値観に対する理解、認識を深めました。参加者たちは、今回の研修で身に付けた価値観を自分の職場の仲間に伝えることを宣言して、短い3日間の合宿が終了しました。



### ■ コクヨ中国初回 優秀社員日本 研修

2018年9月、国営中国から選抜された4名による日本研修が実施されました。研修は、近畿IDC物流センターをスタートに、大阪本社、滋



賀工場、三重工場をまわり、最後に品川事務所で報告会というスケジュール。短い期間でしたが、それぞれの場所で応じてくれた仲間たちと触れ合う中で、コクヨの価値観や理念を再確認し、コクヨの一員としての誇りと使命感を感じることができました。今後も中国を代表する優秀社員を日本に招き、互いの絆をさらに深めていきたいと思えます。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

### 社員とのコミュニケーション

コクヨでは、社員どうしのコミュニケーションを活性化させるために、様々な媒体を通じた発信や仕組みづくりに取り組んでいます。イントラネットを活用した社内報の運用のほかにも、各拠点でのイベントも活発に行っています。

#### 新しいワーキングスペース「DIVERARY」(ダイブラリー)がオープン

課題に向き合い、解決に向けて考えることに没頭するためのスペース「DIVERARY」(ダイブラリー)が、2018年2月14日、品川ショールームの2階にオープンしました。DIVERARYとは、DIVE(没頭する)とLIBRARY(図書館)を組み合わせた造語。さまざまな図書を通じてアイデアの種を蓄積したり、整理したりできるだけでなく、落ち着いた雰囲気の中でリラックスして気分をリセットしたり、仕事への英気を養ったりできる新しいワーキングスペースです。



#### ステーションナリー事業本部の表彰式を開催

2018年1月末、大阪と東京の2会場にて、2017年度ステーションナリー事業本部の表彰式が開催されました。この表彰は、互いに認めあい、褒めあえる企業風土を醸成するための取り組みの一つとして2009年から毎年開催しているもので、仕事上での取り組みを、さまざまな観点から総合的に判断し、社員による投票を参考に審査するものです。2017年度からは個人賞も新設され、仕事だけでなく、個人にも目を向けて褒めあえるよい機会となりました。これからも、積極的に互いを認める風土醸成に向けて、全員で取り組んでいきます。



#### 定年退職を迎える社員をねぎらう祝典「春秋会」

「春秋会」は、コクヨグループ各社に勤め、定年を迎える社員の多年にわたる労苦をねぎらい、節目を祝う祝典で、上期・下期の年2回行っています。2018年は、上期41人、下期59人の方々が対象となりました。式典では、出席者本人がつづったコクヨ人生の思い出や後進に伝えたいことなどが披露され、黒田会長から出席者一人ひとりに記念品の目録が贈呈されるとともに、多年にわたる努力や貢献への感謝の意が伝えられました。





## 平成30年度コクヨ物故者慰霊祭

2018年8月28日、平成30年度コクヨ物故者慰霊祭が、高野山・天徳院で執り行われました。この慰霊祭は、コクヨグループの発展に寄与した先人に感謝の念を込めて、この1年間に亡くなられた故人の御霊を新たに合祀して慰霊する行事です。1974年にコクヨグループが70周年の節目を迎えた際、故黒田璋之助名誉会長の発案で高野山に物故者慰霊塔を建立して以来、毎年行っています。今年度合祀された方は31人で、1974年からの合祀者数は計631人になりました。



## SST社員交流イベント「CROSS!!!」開催

東京品川SSTオフィスでは、毎月、社員交流イベント「CROSS!!!」を開催しています。ヒト・モノ・コト、さまざまなものが「交差」して欲しいという想いを込めて名付けられたこのイベントは、必要なときに、必要な人と気軽に繋がることができるコミュニケーションのインフラとして「人を知り／つながり／交わる」場であること、開催テーマを通じて「さまざまな知識やスキルを学べる」場であること、という2つの場の提供を目的としたものです。交流と成長に対して前向きな人が多くを得られる場になるよう、これからも魅力的なイベントを開催していきます。



## 石見紙工業 創立100周年を記念する式典を開催

1918年に製紙・半紙手漉工場として創業した石見紙工業（本社：島根県鹿足郡津和野町／社長：徳永 寛基）が100周年を迎え、2018年10月24日に記念式典を開催しました。

式典では、津和野町の下森町長から祝辞をいただき、スライドと動画でこれまでの100年を振り返ったり、鏡割りを行ったりするなど、節目の日を全員で祝いました。これからも、受け継がれてきた印刷・加工技術をさらに磨き、自分たちの強みを積み重ねることで、石見紙工業でしかできないモノづくりを続けていきます。



## コクヨアンドパートナーズ(K&P)、年末恒例のパーティーに、過去最高の170名が参加

コクヨアンドパートナーズ株式会社(K&P)のパーティーを、2018年11月17日に開催。お客様のオフィスに常駐し、受付・メールルーム・庶務・ファシリティ管理などの総務業務や、MOVをはじめとしたコワーキングスペースの運営を提供している総勢300名の社員・パートナーのうち、約170名が集まりました。

今回のテーマは「みんなで作って、さわいで、つながろう」。そのテーマの通り、各自でデコレーションしたオリジナルの名札を身に付け、会場デコレーション用の風船も参加者全員で膨らますなど、手作り感あふれるパーティーとなりました。







## 「らしく×らしく」事務局が女性社員研修をはじめとしたイベントを企画

コクヨロジテムのダイバーシティ推進と女性活躍を目指す「らしく×らしく」事務局では、2018年10月17日に、5回目となる集合型研修会「らしく×らしく」ミーティングを東京で開催。総勢43名の女性社員に加えてパートナー企業のJR東日本物流様をお招きして、女性の働きやすい環境づくりややりがい、物流部門ならではの悩みの解決法などについて講演が行われました。今後も事務局では、ダイバーシティと女性活躍の実現に寄与する新しいイベントを、さまざまな視点から企画していきます。



## 「こくよのこくはく」プロジェクト始動

2018年6月から、文具に対する「こだわり」や「想い」をコクヨの社員同士で共有するプロジェクト「こくよのこくはく」がスタートしました。第一回目は、3,000人を超える全国のグループ社員から、一人ひとりが偏愛してやまない文具への想いを込めた「こくはく」を募集。寄せられた大量の想いは、それぞれの商品を国に見立てた地図にして、「こくはく」した人数の多さを国の面積、コメントの熱さを国土の色で表現しました。社員のコクヨ愛が溢れたこの地図は、コクヨ2019ワークスタイルフェアに合わせて、11月5日から東京品川SSTオフィスで公開されました。

☛コクヨCSR憲章	☛会社概要	☛コクヨが主に取り組む領域	☛コクヨの取り組みとその歩み	☛未来と社会のための取り組み	☛コクヨのさまざまな取り組み	☛2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☛コクヨのCSR	☛環境	☛社会	☛ガバナンス	☛社外からの評価	☛対照表	

## ■ 社会

### 社員の安全と健康

安心・安全で快適な職場づくりや、社員の健康管理、災害時の安全対策などは、社員がいきいきと働き、能力を発揮するための基盤であると考えています。社員と活発な意見交換をしながら、仕組みや体制を整えています。

#### 考え方

安全・安心・快適な職場づくりは円滑な事業推進の要と考え、現場と活発な意見交換を行いながら推進しています。

#### コクヨグループ労働安全衛生基本方針

##### 【基本方針】

Safety First !

コクヨグループは、一人ひとりの心と体の健康と安全を事業の基盤と位置づけ、安全活動を推進します。

##### 【行動指標】

- 1.労働安全衛生法等の関係法令ならびに社内の指針・基準を遵守します。
- 2.継続的且つ自律的な職場改善を促すとともに、労働災害や疾病の予防に努めます。
- 3.グループの事業にかかわる全ての人の安全と健康を確保するため、全員参加型の風通しの良い風土作りを推進します。

#### コクヨグループ健康目標と2018年結果

コクヨグループでは、「生活習慣病にならない身体づくり」を実現するため、2013年より具体的な健康目標を定め、社内の健康保険組合や健康管理室と連携した健康活動を推進しています。

日々の歩数や体重などを記録し、楽しみながら運動の習慣化を促すウォーキングキャンペーンや、保健所と連携した食生活セミナーなどを実施しています。また、がん予防対策としては、乳がん・大腸がん検診の受診促進として、社内での定期検診時にマンモ検診ができるように機器を設置しました。さらに希望者は「人間ドック」が受診できるなど、健康診断項目の充実化や、社員が自ら健康意識を持って受診できる機会を積極的につくってきました。こうした取り組みにより、経済産業省と日本健康会議が選出する「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」に認定されました。

##### 健康指標の例

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
BMI値25以上の占める割合	23%	23%	23%	24%	25%
喫煙率(問診データより)	26%	27%	26%	26%	26%

#### 労働安全衛生の取り組み

#### 健康経営優良法人2019(ホワイト500)に認定

コクヨ(株)と(株)カウネットは経済産業省と日本健康会議が共同で選出する「健康経営優良法人 2019(ホワイト500)」に認定されました。健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度で、コクヨとカウネットは規模の大きい企業や医療法人等を対象とした「大規模法人部門」において認定されています。



## ■ 平成30年度コクヨグループ建設業・工場安全衛生大会を開催

平成30年で91回目となる全国安全週間※(7月の第1週)、日本中が改めて安全の大切さを考えるこの時期に、コクヨグループでも全国各地で安全を考え、意識を高める目的で安全衛生大会を開催しました。

### ●【建設業】平成30年度コクヨグループ建設業安全衛生大会

コクヨ建設業安全衛生推進委員会は「企業の成長を支える基盤は、社員と仲間の安全と健康である」という考えのもと、平成30年度は『共に働く仲間の健康と安全を最優先とし、安全文化を定着させ、快適で魅力ある職場環境を形成する』という基本方針を社員とパートナーで共有し、コクヨグループがイチガンとなって、無事故無災害に取り組む事を再確認しました。全国7会場において、コクヨグループ中央安全衛生委員会の委員長である黒田副会長が開会の挨拶を行ったほか、各地区代表者の挨拶・建設業安全衛生推進委員会の活動報告・協力パートナーの方々の表彰などが行われました。

### ●【工場】コクヨグループ国内工場での安全衛生大会・安全パトロール

国内5工場7拠点で安全衛生大会と安全パトロールを実施しました。安全衛生大会では、「風通しのよい職場づくり」への取り組みの一環として、各職場幹部から推薦された「ありがとう」を伝えたい人への感謝状贈呈、労働災害データ、安全への取り組み方針の説明なども行われました。

建設業・工場・いずれの安全衛生大会においても、安全に対する意識が形骸化されないように、ひと工夫された内容となりました。安全を守る風土を未来に繋げていくために、拠点ごとに年に一度立ち止まって安全を考える場を、これからもグループ全体で設けていきます。

### ●【配送】コクヨロジテム安全会議

コクヨグループでファニチャー商品の物流・納品を行うコクヨロジテムでは、第7回安全会議を開催。大阪、東京の2会場でロジテム社員・パートナー会社の方々を含め、延べ230人の方々が会議に参加しました。会議では「複雑化する環境の中で安全の基礎・基本を考える」というテーマに基づき、パートナーの皆さまと社員がグループディスカッションを行いました。

### ●【開発】ものづくり安全大会・安全パトロール

コクヨ商品の開発や品質検査等を行うワークショップと、印刷及び加工等を行うコクヨKハートが参加しコクヨ本社にて安全大会と安全パトロールを実施しました。開発現場においても機械工具や多くの化学物質を扱うため、労働災害防止を従業員に改めて周知・確認する場として行っています。

※厚生労働省と中央労働災害防止協会の主唱により、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進するとともに、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的として実施するもの



安全大会の様子(コクヨMVP)



全員で安全スローガンを指差唱和  
(建設業関東地区安全大会)



安全パトロールの様子(コクヨKハート)

## ■ ロジテム関西配送センターとKSL近畿IDCの安全巡視を実施

2018年10月15日、コクヨグループ中央安全衛生委員会による、コクヨロジテム関西配送センター・コクヨサプライロジスティックス(KSL)近畿IDCの構内安全巡視が行われました。配送拠点の巡視は、昨年のコクヨロジテム佐賀事業所・KSL九州IDCに続き今年が2回目です。今回は、台風21号による被害状況も確認する意味での巡視となりました。コクヨグループ中央安全衛生委員会は、引き続き、グループの仲間が安全・安心・いきいきと働ける環境づくりと企業風土の醸成を図っていきます。





## ■ 芝山工場へ成田労働基準協会様が研修視察

成田労働基準協会様が毎年実施している「優良事業場視察研修会」の視察先として芝山工場が選ばれ、2018年11月9日、成田労働基準監督署長様、成田労働基準協会事務局長様、東金労働基準協会事務局長様など、総勢36名が来場されました。芝山工場が選定されたのは、2017年の「全国産業安全衛生大会」で芝山工場が行ったフォークリフト物損事故撲滅活動についての発表を評価されたことによるものです。視察当日は、芝山工場の概要や、安全活動への地道な取り組みについて説明した後、今回の視察のきっかけとなった「工夫を重ねたフォークリフト事故撲滅活動」の発表の再現を行いました。



## ■ 新しい取り組み 九州IDC 連続無災害2500日達成！

コクヨサプライロジスティクス九州IDCは、2008年10月1日から10年にわたって労働災害を一つも起こさずなく物流業務を続け、2018年10月1日で連続無災害2500日を達成。これを祝して10月24日に記念式典を開催し、九州IDC社員だけでなく、コクヨロジテム九州事業部、倉庫内外の作業をお願いしているパートナー企業の幹部や社員の皆様にも参加いただきました。2500日は通過点に過ぎません。無災害記録を伸ばすため、今後も地道に取り組んでいく決意です。



## ■ コクヨグループ工場交流会2018を開催しました

2018年11月1日、コクヨグループ中央安全衛生委員会の主催により、グループ工場の安全担当者が一同に会する工場交流会を、鳥取市にあるコクヨMVPで行いました。3回目となる今回からは、業種を超えたグループ内の安全衛生の輪を広げていくことを目的に、ファニチャー事業本部、コクヨロジテムの安全責任者も参加して、意見を交換しました。コクヨグループでは「企業の成長を支える基盤は社員の健康と安全である」という考えのもと、今後もグループで働く社員の安全と健康維持、いきいきと働ける環境・風土づくりを行っていきます。



## ■ 健康活動の取り組み

### 1) 健康キャンペーンの実施

会社・コクヨ健康保険組合が協働で全社員対象に実施しているウォーキングキャンペーンも2018年で5年目となりました。楽しく健康になっながらプレゼントももらっちゃおう！というコンセプトで『WEBウォーキング大会 健康チャレンジログ』と名付けたこの健康活動は、社員一人ひとりが日々の運動歩数などを申告し、達成者には季節の果物がプレゼントされます。参加者も年々増加しているこの活動を継続していくことで、今後も健康意識の向上を図っていきます。



### WEBウォーキング大会参加者数

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
参加者	340人	670人	853人	923人	1,177人

## 2) 感染症対策

重症化リスクの軽減化を図るため、社内でインフルエンザ予防接種ができる機会(場所)を拡大しています。また、健康保険組合からは補助金を出すなど、社外の医療機関でも接種しやすい環境を整えています。  
また、各事業場に手指消毒液やマスクを設置し、ポスターやWEB版の社内報、全社員メールなどを活用し、予防や感染拡大防止に向けて啓発活動を継続的に行っています。

### 予防接種実施者数

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
予防接種実施者数	2,487人	2,749人	2,852人	2,630人	2,951人

## 3) メンタルヘルス対策

2016年より、法律に基づくストレスチェックを実施しています。

チェック後も、社員一人ひとりが気軽にセルフケアを受けることができる体制づくりのため、外部機関が運用するEAP(社員支援プログラム)も導入し社員自身の負担感への気付きを促し、早期に予防のサポートができる環境づくりを行っています。

あわせて、「エンゲージメント」「ES(社員満足度)」「コンプライアンス意識」に関するサーベイを、従業員サーベイ(職場の「健康診断」として統合的に実施しています。

特に、これらのサーベイの結果のうち職場の風土に関わる項目と労働時間のデータと突き合わせながら、職場改善に向けたきっかけ作りのためのツール・KPIとして活用し、現場起点での活動に繋げています。

## コクヨの健活！

コクヨグループでは、「生活習慣病にならない身体づくり」実現のための健康活動を推進。社員がいつでも自身の健康診断を確認し、自己管理に役立てられるように、健康診断結果をインターネット上で閲覧可能なシステムを導入しています。また、検診結果がコクヨグループの基準に照らして一定以下となった場合は、産業医や産業看護職との面談を設定し、就業上の措置を通じて社員の健康回復を図るなどの対策を行っています。

その他、受動喫煙の影響と対策、妊娠・育児中でも安心して働ける職場づくりのための啓発など、さまざまな情報発信を通じて、社員の健康づくりをサポートしています。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

### 働き方改革

コクヨは2020年までに、働き方改革につながる様々なチャレンジに取り組みながら、新しい働き方を社内に定着させ、「スマートワークで成長する」ことを目指します。

#### 考え方

#### ワークライフバランスの実現

コクヨグループではワークライフバランスに配慮して、働きやすい環境づくりに努めています。これらの取り組みが認められ、2018年12月末現在、グループ4社が「くるみんマーク」を取得しています。「くるみんマーク」は、少子化の改善を推進する厚生労働省が次世代育成支援対策推進法に基づいて「子育て支援に積極的な企業・団体」に交付しているマークです。

【取得会社】(2018年12月末現在)

コクヨ(株)、(株)カウネット

コクヨマーケティング(株)、コクヨエンジニアリング&テクノロジー(株)



#### 自己都合退職者再雇用制度

結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤・留学・ボランティア・転職、及びその他会社が認めた事由により、自己都合で退職した正社員を再雇用する制度を設けています。

コクヨグループの外で過ごした間に培われた経験・知識にグループ内にもたらされ、グループのダイバーシティがさらに広がることが期待されています。

#### 定年退職者の再雇用への対応

コクヨでは、原則として、60歳定年後もコクヨグループで勤務を希望する社員全員が、シニア社員として勤務を継続することを可能とする制度を整備しています。

この取り組みにより、社員が定年後も社会で活躍できる機会を提供するとともに、これまでの勤務で培われた豊かな経験・知識が活用され、後進の育成に寄与されることが期待されています。

#### 「在宅勤務制度」や「コアタイムの無いフレックスタイム制度」の導入

コクヨでは、育児・介護で時間や場所に制約のある社員を対象として、1日単位または時間単位での在宅勤務制度を導入しています。朝、出勤するまでの時間や、帰宅後、家事を済ませてから就寝するまでの隙間時間を効率的に使うことで、育児と仕事にしっかり取り組むことができ、利用者も増加しています。

## 働き方改革の取り組み

### 「ワクワク、スマートワーク」トライアル実施

働き方改革に繋がる取り組みとして、多様な働き方にチャレンジする「ワクワク、スマートワーク」。2018年7月23日から10月26日までの3カ月間にわたってトライアルが実施され、個人応募による参加者100人、選定された9部門から参加した155人が、テレワークや在宅勤務、コアタイムなしのフレックス勤務など、さまざまな働き方に挑戦しました。このトライアルにより、仕事内容に合わせて自律的に時間と場所を選択することで、通勤時間の削減やライフ時間の有効活用につながり、東京都が主催する「時差Biz推進賞」のワークスタイル部門を受賞しました。今回の実施結果を受けて、組織としてのスマートワークを実現するための課題抽出に繋げていく予定です。



### 梅田バリューチェーン一体で「働き方見直し」に取り組んでいます

働き方改革に繋がる取り組みとして、多様な働き方にチャレンジする「ワクワク、スマートワーク」。2018年7月23日から10月26日までの3カ月間にわたってトライアルが実施され、個人応募による参加者100人、選定された9部門から参加した155人が、テレワークや在宅勤務、コアタイムなしのフレックス勤務など、さまざまな働き方に挑戦しました。今回の実施結果を受けて、組織としてのスマートワークを実現するための課題抽出に繋げていく予定です。



### 労使で取り組む働き方改革

メリハリのある働き方を実現するには、制度面だけでなく、意識改革も重要と考えています。労使で協力して次のような取り組みを推進しています。

- ・制度やルールの理解浸透(勤怠ルールの勉強会・在宅勤務制度の個別相談会の開催)
- ・「プラス3休暇」(3日間の年休取得)の推進
- ・風通しのよい職場風土づくり(従業員サーベイを活用した職場改善のアプローチ)

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

### 取引先との取り組み

コクヨグループは、取引先とともに新しい価値を生み出し、お客様の満足を追求しています。また、取引先の皆様と信頼関係を構築し相互発展を目指すために、調達基本方針を策定しています。

#### 考え方

企業活動がグローバル化する中、社会的責任の範囲は自社及び子会社の管理だけでは不十分となってきています。2013年に主要協力工場32社に調達方針に関する説明会・セルフチェックアンケートを実施し、その結果をフィードバックしました。2014年には約400社の調達先に「調達基本方針」及び「ガイドライン」を送付しました。こうした活動を通じてさらなる信頼関係の構築に努めます。

#### コクヨグループ調達基本方針

##### コクヨグループ調達基本方針

コクヨグループは、企業理念「商品を通じて世の中の役に立つ」をサプライヤーの皆様と共有し、相互理解と信頼関係構築に努め、共に社会的責任を果たし、社会の発展に貢献し続けます。

##### ■ 品質・安全の追求

お客様に選ばれ続けるため、国・地域の特性に応じた最適な品質・安全性を追求します。

##### ■ 相互発展

国・地域の関係法規及び社会規範を遵守し、公正で透明な取引を行い、誠実な信頼関係構築と相互発展に努めます。

##### ■ 人権尊重

国・地域の文化・習慣を理解し、すべての人の人権が尊重される社会を目指します。

##### ■ 環境保全と地域社会との共生

地球規模で環境保全に取り組み、地域社会への積極的な参画を通じて、良き企業市民として社会との共生に努めます。

コクヨグループはサプライチェーン全体における社会的責任を果たし、事業を通じて社会の発展に貢献するため「コクヨグループ調達基本方針」に基づき、サプライヤーの皆様とともに達成したい事柄を「コクヨグループ調達ガイドライン」として定めています。

## 1. 品質・安全の追求

お客様に選ばれ続けるため、国・地域の特性に応じた最適な品質・安全性を追求します。

### 1-1 お客様の満足

お客様のニーズを的確に把握し、安全かつ優れた品質の製品・サービスを開発・提供することでお客様の満足におこたえします。

### 1-2 お客様対応

お客様からの要望・不満には、お客様の立場に立って迅速かつ誠実に対応し、さらに品質改善とクレームの防止につなげます。

### 1-3 製品供給

適正な在庫の保有および物流体制を通じて、納期を遵守し確実な製品供給を行います。

### 1-4 災害等のリスク管理

平時よりリスク管理体制を構築し、お客様に対して安定した製品供給を行います。

### 1-5 適正な価格

市場競争力のある価格での製品供給と継続的な低減努力に努めます。

## 2. 相互発展

国・地域の関係法規および社会規範を遵守し、公正な取引を行い、誠実な信頼関係の構築・相互発展に努めます。

### 2-1 コンプライアンスの推進

国・地域の法令、社会規範および企業倫理の遵守を徹底し、社員への啓発活動に努めます。

### 2-2 公正で透明な取引

公正で透明かつ自由な競争を尊重した取引を行います。また、発注者の立場を利用し取引先に金品や特別な扱いを求めるような行為は行いません。

### 2-3 反社会的勢力との取引等の禁止

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的な活動や勢力に対して、毅然とした態度で臨み、不当な要求には一切応じません。また、取引等の関わりを持ちません。

### 2-4 知的財産権の保護

知的財産権を保護し、不正な使用は行いません。

### 2-5 利益相反行為の禁止

役員・社員の立場を利用して、会社の正当な利益に反して個人の利益を図る行為を行いません。

### 2-6 機密情報管理

営業・技術・経営情報などの企業秘密情報、個人情報などは適切に管理し、情報の紛失・漏えいを防止します。

### 2-7 情報開示及び提供

事業活動内容、製品の品質および安全性などに関わる情報を適切に開示し、ステークホルダーからの要求に応じて製品情報や製品に含有する有害化学物質情報等の環境情報の把握・提供に努めます。

### 2-8 インサイダー取引の禁止

未公表の重要な内部情報に基づき、自社や関係先の株式売買などを行うインサイダー取引およびそれらを誘発する行為を行いません。

## 3. 人権尊重

国・地域の文化・習慣を理解し、すべての人の人権が尊重される社会を目指します。

### 3-1 児童労働・強制労働の禁止

不当な差別や児童労働・強制労働は認めません。また、それらを行っている企業・団体等との取引は行いません。

### 3-2 セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの禁止

セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、いじめなどの人権侵害は認めません。

### 3-3 労働安全衛生

社員の安全と健康に配慮し、快適な職場づくりに努めます。

### 3-4 人材育成

グローバルな舞台でも活躍できる人材の育成に積極的に取り組みます。

## 4. 環境保全と地域社会との共生

地球規模で環境保全に取り組み、地域社会への積極的な参画を通じて、良き企業市民として社会との共生に努めます。

### 4-1 環境保全活動の推進

環境関連法令を遵守するとともに企業活動のすべてにおいて環境保全に取り組みます。また、自然環境や生物多様性に配慮した活動を推進します。

### 4-2 環境負荷の把握・低減、グリーン調達

事業活動における環境負荷を把握し、設備の改善や資材の見直しなどにより、その低減に努めます。また、グリーン調達に努めます。

### 4-3 社会貢献

社会・教育・文化支援活動や地域社会との交流、美化活動、ボランティア活動などに積極的に参画します。

## サプライヤーとの取り組み

### ACWアワードを発表

2017年7月に活動を開始したACW(Action to Change Workstyle)。1年を終えて、優秀活動会員様の表彰「ACWアワード」が行われました。

ACWは、多くの企業で模索されている「働き方改革」の潮流をビジネスチャンスと捉え、働き方改革を実現するための提案活動を行う取り組みです。これからも、販売店様とお客様の関係性を強化し、結果としてココヨと販売店様双方の持続的成長を図ることを目指し、販売店様とともに、活動を拡げていきます。



### ファニチャー事業「協力工場会」を開催

ファニチャー事業では主要な協力工場様の経営層を招いて年2回「協力工場会」を開催しています。

2018年は5月と12月に開催、5月には需要期の振り返りと今後の販売動向予測について、12月には当期の振り返りと来需要期に向けた施策、市場動向に関する説明を行いました。

さらに特に秀逸な取り組みを実施いただいた協力工場様を表彰して感謝の意をお伝えするとともに、お互いが切磋琢磨して共存共栄できるよう取り組み内容を発表いただき、ファニチャー事業全体のレベルアップに御協力いただいています。

また11月には協力工場様のデザイン・開発系の中堅社員を対象とした「トレンド・マーケティング勉強会」を開催し、弊社のものづくりにおける市場のトレンド分析やデザインコンセプトを共有しました。



優秀工場の表彰



グループ執行役員 ファニチャー事業本部長の坂上による説明

### ステーションナリー事業 協力工場の監査を実施

ステーションナリー事業では、従来より商品のカタログなどにおける環境表示の信頼性確保を目的として協力工場の監査を実施しています。2018年は89社の工場監査を実施しました。

グリーン購入法などにおいて定められている環境配慮に関する基準への適合性について、協力工場を訪問し、社で定めた監査手続きに従って古紙や再生樹脂の配合率が基準に適合しているか、指定した規格の材料が製造工程に投入されているか、材料の合法性に問題がないかを確認しています。また、監査に際しては協力工場と環境配慮基準への適合を適切に担保するための課題について一緒に考え、製造管理面における信頼性を向上させるための改善事例について情報交換をすることで、今後も環境表示の信頼性の確保に努めていきます。



お客様への提供価値を高めるため、メーカー系・流通系ともに調達先の皆様と定期的に戦略や方針などを共有し、長期的な信頼関係に基づいた相互発展を目指します。

### ■ コクヨロジテムが「第9回共配甲子園」を開催

2018年10月13日、ファニチャー製品の共同配送・納品時における顧客満足度の向上を目的とした配送コンテスト「共配甲子園」の全国決勝戦を開催しました。日頃培った組立技術やホスピタリティを存分に発揮する場として社内外での認知度は年々高まっており、その水準も回を重ねるごとに高くなっています。今年のテーマは「基本動作と商品知識+スピード感」。全国から約400人が参加し、あらためて基本に立ち返る、学びの場としてよい機会となりました。



### ■ コクヨロジテムでカイロを配布

物流事業を行うコクヨロジテムでは、2018年1月から2月にかけて、ドライバーへカイロを配布する活動を行いました。活動に賛同いただいた14箇所の配送センターでは、需要期を前に「ご安全にお願いします」と声をかけながら、構内作業員やドライバーの皆様へカイロと飲料を手渡しました。これからも笑顔が広がるような活動を企画していきます。



☛コクヨCSR憲章	☛会社概要	☛コクヨが主に取り組む領域	☛コクヨの取り組みとその歩み	☛未来と社会のための取り組み	☛コクヨのさまざまな取り組み	☛2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☛コクヨのCSR	☛環境	☛社会	☛ガバナンス	☛社外からの評価	☛対照表	

## ■ 社会

### お客様への安心・安全の提供

コクヨは常にお客様の視点で新しい商品・サービスを開発し、またすべての商品サービスにおいて、現状に満足することなく、より高い安全性と品質を追求し続けていきます。現在、全社でISO9001認証取得に向けた取り組みを進めています。

#### 全社でISO9001(品質マネジメントシステム)の認証取得を達成

コクヨのファニチャー事業においては、1997年に認証取得したISO9001品質マネジメントシステムに基づき、製品の企画・設計開発・生産から施工に至るまでのプロセスの手順を定め、厳格に運用してきました。

しかしながら、昨今、製品の品質に関する不祥事により、市場からの厳しい評価に晒される事例が増加しています。

コクヨが今後も高い品質を維持していくためには、マーケティングプロセスに始まり、企画・設計開発・生産プロセスが一連で繋がっている必要があるという考えから、ファニチャー事業にとどまらず、全社一丸となってISO9001の認証取得を目指すことになりました。2018年7月に全社横断で認証取得に向けたキックオフを行い、2019年4月、JQA(日本品質保証機構)による外部審査を終え、全社でISO9001を認証取得することができました。(※)

また同時に、コクヨの品質に対する姿勢を下記の「コクヨか会社 品質方針」に決めました。



# ISO 9001:2015

KOKUYO

## コクヨ株式会社 品質方針

わたしたちは、「はたらく・まなぶ・くらす」を豊かにする商品・サービスの提供を通じて、お客様の信頼に応え、満足を追求し続けます

1. お客様の期待をあらゆる面で上回る商品開発に努めます
2. 安心・安全な商品の提供と、より良い品質の追求に努めます
3. 関連する法令・規制を遵守し、社会的な責任と役割を全うします
4. お客様の声を真摯に受け止め、商品開発・改善に取り組みます
5. 環境の変化に対応して、継続的にマネジメントシステムの改善に取り組みます

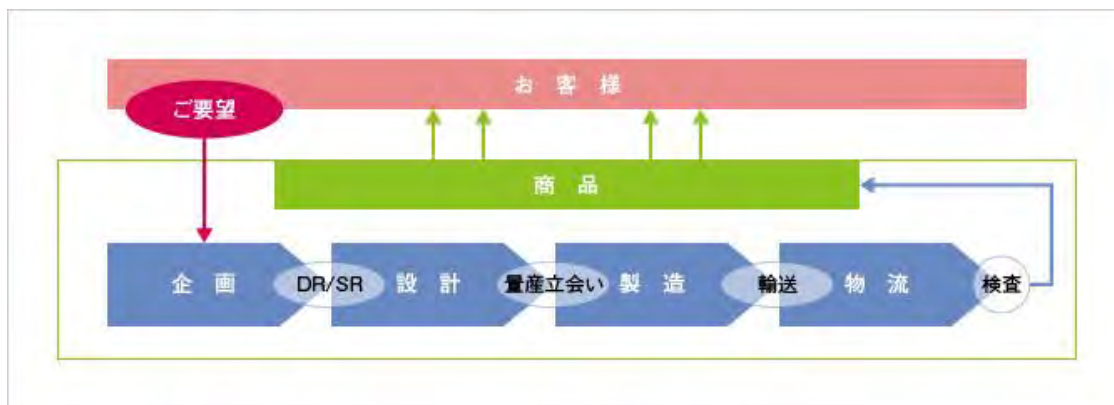
2019年1月1日 コクヨ株式会社 代表取締役社長 黒田 英邦

今後も策定したQMS(品質マネジメントシステム)のPDCAを回し続け、持続的成長と品質向上を実現させてまいります。

※ ただし、適用範囲として、ステーションナリー事業はコクヨブランド品のみ、Kaunetはカウネットブランド品のみ。

#### 文具の品質保証

お客様に信頼される品質をお届けするため、企画・設計・製造・物流の各機能において品質を作り込む仕組みを体系的に構築・運用し、そして改善に取り組んでいます。



## 品質維持・向上のための取り組み

### 1) 品質保証体制の深化

品質の作り込みにおいて重要なプロセスであるデザインレビュー・セーフティレビュー・量産試作立会い・化学物質管理のガイドラインを時代に合わせた内容に見直し、再整備を実施しました。若手・新人の教育へ利用するとともに、品質に携わる社員のバイブルとして利用を促進し、品質保証体制の深化に取り組んでいます。

また、商品リスクの評価方法を導入し、リスク対策を実施することでお客様に安心してお使いいただけるように努めています。

### 2) グローバルでの検査体制の確立

グローバル標準の検査技能評価手法を確立し、各国の検査員の技能レベルを評価・偏差値化し、教育・指導の体制を整え、検査技能レベルを一定に保持する取り組みをしています。また、グローバルに検査の7つ道具やマニュアル類を整備し、検査レベルそのものも一定に保持することで、検査での不良品の発見精度をさらに高め、不良品の流出防止に努めています。



品質試験へのロボットの導入

### 3) クレームへの対応の精度とスピード向上のために

世の中は、安全に加えて安心をさらに求める社会になり、加えて、多くの情報がいつでも・誰でも・どこでも受発信できる時代になってきました。今後、お客様からのクレームに対してさらに精度を上げてスピーディーな対応をしていく必要があると考え、商品リスクの発生時に企業がとるべき行動のプロセス・判断材料・判断基準の見える化・標準化に取り組んでいます。それにより、組織の意思決定フローの統一と、判断のブレの最小化とスピードアップを図っていきます。

### 4) 品質確認試験に加え価値評価試験を強化

既存商品のリニューアルや新製品の開発において品質確認試験を従来から徹底的に実施していますが、さらにロボットを導入して試験品質の持続的な維持・向上に努めています。また、多様なお客様のニーズに応えるため、安価で丈夫といった当たり前の品質を確認することはもとより、お客様にとって価値のある魅力的品質の定量化にも取り組んでいます。

## 家具の品質保証

コクヨのファニチャー事業においては、1997年に認証取得したISO9001品質マネジメントシステムに基づき、製品の企画・設計開発・生産から施工に至るまでのプロセスの手順を定め、厳格に運用しています。

また、製造・納品・施工に関わる各部門では日々の改善活動を行っており、お客様からいただいたご意見・ご要望を活用して品質改善を図っています。

## 製品を安心してお使いいただくために

### 1) 高いレベルの「社内基準」の設定

新製品の開発プロセスでは、使い勝手や安全性に対して多面的な評価を行っています。そして、JIS規格・業界規格への適合はもちろんのこと、さらに高いレベルの「社内基準」をクリアするモノづくりを行っています。

### 2) 不具合発生時の対応

お客様がご使用中の製品に不具合が生じた際には、その情報は関連部門で共有され迅速な対応をいたします。その過程で原因究明を行い、製品や製造工程の改善に反映することで同様の不具合の再発防止に努めています。

また、重大事故が発生した場合には、リスクコンプライアンス委員会で対応方針を決定し、関係省庁への報告、新聞・ウェブサイトなどを通じて告知を行い被害の拡大を防止します。

### 3) 製品安全・品質に関する告知

お客様への製品安全・品質に関する告知媒体としてホームページの活用を行っています。



ファニチャー事業ウェブサイト  
[製品安全・品質に関する重要なお知らせ](#)

### 4) 納品までのトータルな品質向上に向けての取り組み

家具の販売においては、お客様のオフィスなどに商品をお届けし、お使いいただける状態にするまでが弊社の責任です。そのため、商品の製造工程だけでなく、配送から納品までを含めた品質向上に取り組んでいます。配送を委託するパートナー企業に対しては商品組立技術や接客マナーの研修を実施するとともに、納品品質の全国コンテストである「共配甲子園」を毎年開催しています。これらの活動によって配送員の意識の啓発を行い、継続的な品質向上を目指しています。

## お客様からの声を届ける「心にしみる感動コメント」感謝状贈呈式

物流事業を行うコクヨロジテムでは、2012年から年2回、ウェブによる納品先のお客様を対象にした納品品質に関する配送アンケートを実施し、お客様の声を納品現場の最前線で活躍しているパートナー企業や配送センターに届けています。お客様よりいただいたお褒めのコメントの中から、各選考基準をクリアした「お納めの価値」に繋がる作業をされた乗務員の方々には、「心にしみる感動コメント」感謝状贈呈式と題して感謝状を直接お渡し、感謝の気持ちを伝えています。今後もお客様の生の声を現場に伝えることで、乗務員の方々のモチベーションアップとさらなる品質向上に繋げていきます。



社内投票によるベスト感動コメント賞や最多感動コメント賞を選出

## カウネットの品質保証

カウネットが取り扱う商品は文具・事務用品やコピー用紙をはじめ、飲料・食品・電化製品・ギフト・医療関連用品・店舗運営用品、名刺やスタンプなどのオーダー品・オフィス家具など多種多様で、取り扱うメーカー数は約1,000社になります。カウネットは流通業として、お客様に安心かつ安全にご利用いただくため、取り扱う商品の品質のみならず、コールセンターでの対応やお届けにいたるまで、バリューチェーン一体となって品質の向上に努めています。

## 商品のお届けに関して（主なサービス）

### 1) 当日・翌日配送サービス（一部の商品・サービスは除く）

沖縄県・離島・一部山間地域を除き、午後6時までにご注文いただくと翌日にお届けします。当日配送エリアでは、午前11時までにご注文いただくとご注文当日にお届けします。

### 2) 簡易梱包の推進

通販で一般的な段ボール梱包によるお届けの場合には、商品を保護する緩衝材の使用をできるだけ少なくする工夫を日々重ねています。その他、商品の嵩が低く、かつ品質が保持できると判断した場合には、省資源化の取り組みとして、紙袋かポリエチレン袋による簡易梱包でお届けしています。



簡易梱包の取り組み



### 3) お届け時の梱包方法選択サービス（インターネット注文のみ）

簡易梱包による配送はお客様からは高評価をいただく一方で、購入商品を取引先へ渡したり、贈り物にするときなどには段ボール梱包にしたいという声にお応えして、注文の都度、梱包形態をお客様自身が選べるようにしています。

### 4) 組立てサービス付き家具のお届け

大型家具や重量物・複雑な組立てを伴うものは、家具専門配送員がお届けから開梱・組立て・設置・梱包材の回収まで行います。

## 回収サービス

カウネットでは省資源のリサイクル活動を推進しており、古くなったカウネットカタログや、配送時の段ボール、使用済みのトナーカートリッジの回収サービスを行っています。

## オフィスの災害対策への取り組み

### オフィス地震対策メニューの構築

コクヨは阪神淡路大震災以降、オフィスの地震対策について検証を重ねてきましたが、東日本大震災の後、お客様のオフィスの復旧をご支援していくなかで、オフィスの安全・安心においてまだまだ課題があることを改めて認識しました。また、震災以降は地震対策のご相談が急増し、これまでの振動実験検証では回答しきれないご相談やご要望も多くなりました。

これらの経験やご相談を踏まえ、さらなる地震対策を提案できるようさまざまな実証試験を行いました。そこから得られた膨大なデータに基づき、地震波と地震対策の関係を合理的に捉え、家具の耐震性能の客観的な評価基準を策定しました。その上で、お客様が目指す対策レベルやコストなどに応じて選べるようなオフィスの地震対策メニューをご提案しています。

※ 関連情報:「[地震対策オフィスの創り方](#)」



### オフィスに最適な防災用品導入・運用メニューの構築

組織のBCPを構築する上で、不可欠な防災用品と、それらを導入・運用するために必要なノウハウを提供する「防災ソリューション事業」を展開しています。防災用品ガイドブック「ソナエル」、平時と有事の両方に配慮した防災用品シリーズ「PARTS-FIT」などを中心に、働く環境といざという時の備えの両立をサポートし、「はたらくによりそう防災のかたち」を目指しています。



PARTS-FIT  
[パーツ・フィットシリーズ]



elecabi  
[エレベーター用防災キャビネット エレキャビ]

## 普及啓発活動の実施

「オフィスの地震対策」をテーマに全国でセミナーを開催するなど、普及啓発活動に積極的に取り組んでいます。テーマとしては、震災直後の経営者として直面した苦悩(コクヨ東北販売)、BCP視点からの防災備蓄品対策として、震災後8年が経過し「備蓄している」から「備蓄をし続けている」段階における選定・配置・管理・更新サイクルによる継続的な発展、地震に強いオフィスづくり(ファニチャー事業)など全国各地で行っています。



企業防災に関するセミナーも実施

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

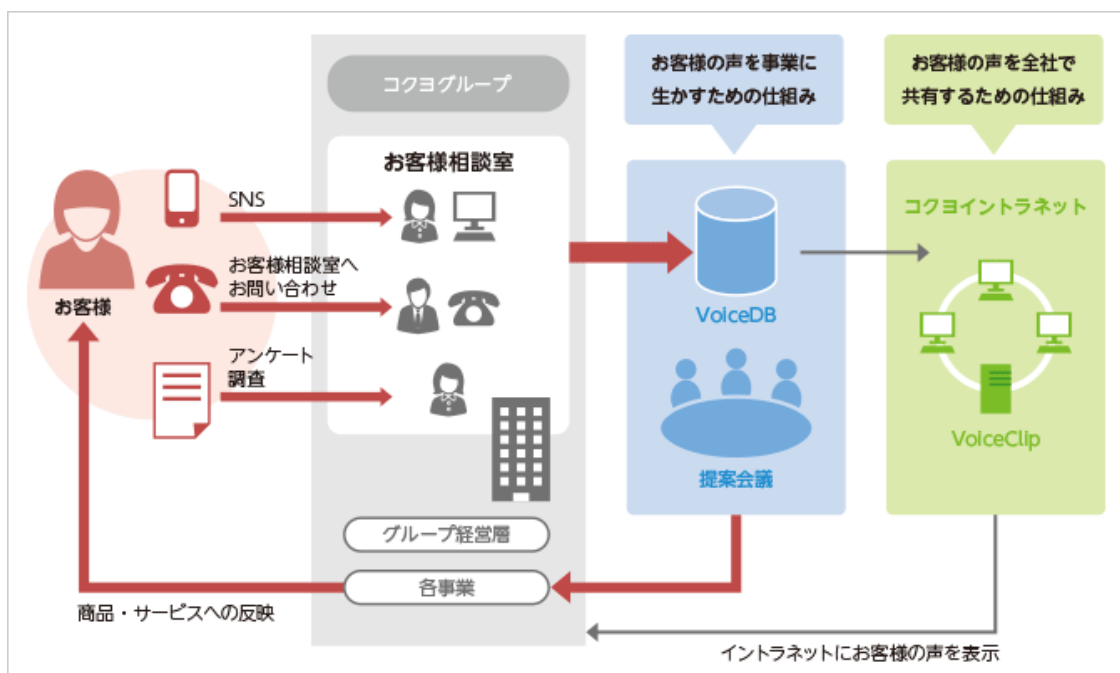
## ■ 社会

### お客様との対話

お客様のお問い合わせには誠心誠意・丁寧な対応を徹底しています。また、いただいた声はコクヨの商品やサービスをより良くするための貴重なご意見として、全社共有に努めています。

#### お客様の声を生かす仕組み

お客様の声を全社で共有するため、お客様の個人情報を除いた声の内容を「VoiceClip」という名称で、イントラネットを通じてグループ全社員に公開しています。「VoiceClip」では、週次で「お喜びの声」「お怒りの声」といったお客様の新鮮な声を「Voice Clip Weekly」としてメールで配信し紹介しています。2012年からは、グループ共通のイントラネットトップページにこれらのお客様の声を表示し、「見える化」をさらに進めるとともに、お客様相談室にお寄せいただいたお客様の声を、個人情報を除いてデータベース「VoiceDB」に集約し、グループ全社員がいつでも目的に応じて自由に検索・閲覧できるようにしています。



#### 強カステープラー<ラッチキス240>

2017年12月にリニューアルした強カステープラーの改良にはお客様の声が生かされています。従来は、ハンドルの滑りやすさを滑り止め塗装で抑制していましたが、特殊な環境下ではまれに経年劣化を起すことがあり、お問い合わせをいただくことがありました。その内容を担当部門に伝え「滑り止め塗装を行わずにハンドル形状の工夫で対応できないか」と考え、男女の使用比較シーンを動画に撮り、ハンドルの押し方を研究。試作を重ね、片手、両手とさまざまな使い方があの中で、手にフィットするラウンド形状と、両サイドの指を置けるくぼみをつけることで、滑り止め塗装をしなくても滑りにくく押しやすいハンドルを実現しました。



オフィスになじむデザイン



SL-M220

### ロンドン・ショーディッチ地区で、期間限定の「THINK OF THINGS」ポップアップストアを開催

2018年10月3日から14日まで、ロンドン東部のショーディッチ地区で、ライフスタイルショップ&カフェ「THINK OF THINGS」のポップアップストアを開催しました。ショーディッチ地区は、新興企業やデザイナー、アーティストなどのクリエイターが集まり、新しいライフスタイルの提案がされているエリアとして注目されています。そういった先進的な地域で活動するユーザーから良好な反応や貴重な生の声をいただくと共に、現地の高水準なクリエイターやリテイラーとの関係づくりにもつながりました。今後も、THINK OF THINGSという空間・プロダクト・コンテンツなどが複合的に組み合わせられたブランドを活用しながら、先進的な取り組みを次々と仕掛けていくことで、国内外のクリエイティブな評価を高めていくと共に、コクヨの今後の提供価値を見据えたさまざまなトライアルに取り組んでいきます。



### 「ほぼ日」主催の「第3回 生活のたのしみ展」に初出展

2018年6月7日から11日まで、ほぼ日がプロデュースし、恵比寿ガーデンプレイスの屋外スペースで開催された、「第3回 生活のたのしみ展」に初出展しました。生活のたのしみ展のコンセプトである「期間限定の、ここにしかない夢のような商店街」にコクヨが共感して出展を決定したものです。子どもの頃に学校や文具店で感じた「新しい発見」や「ワクワク」を、最新のオフィスチェア「ing(イング)」などを通じて伝える展示を行い、大好評のうちに終了しました。





❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

### 新たな価値創造

近年、社会生活における課題がますます多様化・複雑化する中、お客様の「はたらく」「まなぶ」「くらす」がより創造性豊かで実りあるものとなるよう、コクヨならではの価値創造に取り組んでいます。

#### 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルサポーター契約を締結

コクヨは、東京2020スポンサーシッププログラムにおいて、オフィス家具 & 文具カテゴリーにおける「オフィシャルサポーター」契約を締結。東京2020組織委員会をはじめ関係者の皆様が働く事務局などに、オフィス家具や文具を提供することで大会に貢献します。スタッフが働きやすい環境を整えて東京2020大会を支えることはもちろん、その先の東京の未来や社会の幸せにつながる新たな変化に対して、クリエイティビティを発揮し全力で支援してまいります。

#### 革新的技術で、多様化するオフィスのニーズに応える「SENTIR(センチア)」を開発

「SENTIR」は、リビングやカフェのような居心地がよく、自分らしく働くことができる空間をイメージしながら、まるでファッションのコーディネートをするような感覚で、ワークテーブルの仕様や表面仕上げを選択することができる、今までのオフィス家具にはない発想を取り入れたワークテーブルです。

テーブルの表面や脚は、当社独自の表面仕上げ製法を採用。革新的な技術で、2000通り以上のトレンドを取り入れたデザインバリエーションをラインアップしています。



#### 書く習慣を育むIoT文具「しゅくだいやる気ペン」の開発を発表

2018年6月7日、子どもの日々の努力を見える化するIoT文具「しゅくだいやる気ペン」の開発を発表しました。

「しゅくだいやる気ペン」は、動きを認識するアタッチメントを鉛筆に装着し、スマートフォンと連動させることで、勉強への取組みを分析して「見える化」します。単調になりがちな反復学習に楽しみを持たせることで、子どもが「書く」ことに親しみ、自発的に宿題にとりかかる習慣づくりを支援します。



#### ウィルクハーンのマルチパーパスチェア「Occo(オッコ)」を生産開始

ラウンジエリアやミーティングエリア用として人気が高い「Occoチェア」。生産のリードタイムを縮め、より多くのお客様にお届けできるように、2018年7月より、三重工場での生産を開始しました。

三重工場では、2014年のONチェア、2016年のINチェアの生産開始に続き、3モデル目のウィルクハーン製品のライセンス生産となります。

これまで、通常座クッション付き、背座クッション付きの製品は、ドイツからの輸入で3~4ヶ月の納期を要しましたが、ライセンス生産の開始により、最短4週間程度での納品が可能となりました。





## 大学職員の「働き方改革」を考えるワークショップ開催

2018年12月13日、近畿大学工学部(近大工学部)様をココヨマーケティング(KM)中国支社広島ライブオフィスへ招き、「働き方改革」ワークショップを開催しました。

当日は、「広島県働き方改革実践企業」の認定に関する参考事例の説明や、体験型の収納ワークショップなど、ライブオフィスを活用したさまざまな企画を実施。より魅力あるキャンパスづくりの第一歩として文書整理やオフィス改善等、職員がイキイキと働ける環境の実現に向けてスタートを切りました。

これからも企業のみならず、大学の「働き方改革」に対しても、パートナーとして協力を続けていきます。



## 手書きメモのデータ化で、介護現場のサービス品質向上を支援

ココヨは、手書き文字をデータ化できる入力支援ツール「電子下敷」を医療福祉事業者向けに発売し、ブルーオーシャンシステム(BO社)のケアシステム「Blue Ocean Note」(BON)との連携を開始しました。

「BON」は、ケース記録や業務日誌など、介護現場で必要な情報をスタッフ間で共有できるシステム。「電子下敷」との連携によって手書き文字の転記業務負荷が減ることで、現場スタッフが本来の業務に集中でき、介護サービスの品質向上に繋がると期待されています。



## 認知症初期の簡易検査研究に、筆記データ分析で協力

ココヨはワコムとともに、認知機能スクリーニングの一つ「時計描画試験」において、被験者が絵を描く経緯をデータとして蓄積・分析する仕組みを、「電子下敷」と検査用ソフトウェアを用いて構築。新潟医療福祉大学における認知症初期の簡易検査研究に、筆記データ分析で協力しています。

被験者は「紙に書く」という慣れ親しんだ方法で検査を受けることができ、検査者は判断に必要な情報を従来よりも多く手軽に得ることができます。

ココヨは今後もこの研究をサポートし、軽度認知障害の早期発見に貢献していきます。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

### 2018年 主な新商品・サービス一覧



2018.05.28 ステーションナリー事業

[勉強のスケジュール管理に特化した  
ルーズリーフを新発売](#)



2018.05.30 ステーションナリー事業

[プリントとノートをつなぐシール  
「チョイタス」を発売](#)



2018.06.11 海外

[ベトナムの学生向け、  
学びをサポートするノートを発売](#)



2018.06.20 滋賀

[「びわこスター」を発売](#)



2018.07.26 ファニチャー事業

[ワークテーブル  
「SENTIR\(センチア\)」を開発](#)



2018.09.03 防災

[「オフィス防災用回転式ヘルメット」を発売](#)



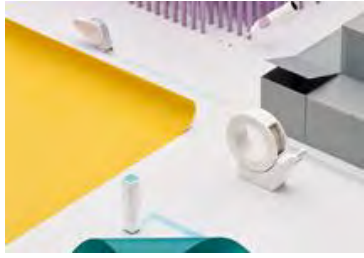
2018.09.18 カウネット

[「ZIPZAP\(ジップザップ\) 手洗い・漂白用バッグ」  
を発売](#)



2018.9.26 ステーションナリー事業

[小学生向け「キャンパスノート\(用途別\)」を  
全面リニューアル](#)



2018.10.01 **ステーショナリー事業**

[「貼る」を変える接着用品の新ブランド「GLOO」が誕生](#)



2018.10.03 **ステーショナリー事業**

[キャンパスノート\(ドット入り罫線\)誕生10周年記念 <保缶>限定発売](#)



2018.10.11 **A&C**

[横浜市内3動物園監修 コクヨのえほん「おえかきずかん」を発売](#)



2018.10.15 **ファニチャー事業**

[タブレットスタンド「TAB MEE\(タブミー\)」を発売](#)



2018.12.10 **ステーショナリー事業**

[ビジネスツールの持ち運びに特化した「もちほこ」シリーズを発売](#)



2019.1.15 **CSR**

[「すっきりとした単語帳」を新発売!](#)



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

### 日本国内での貢献活動

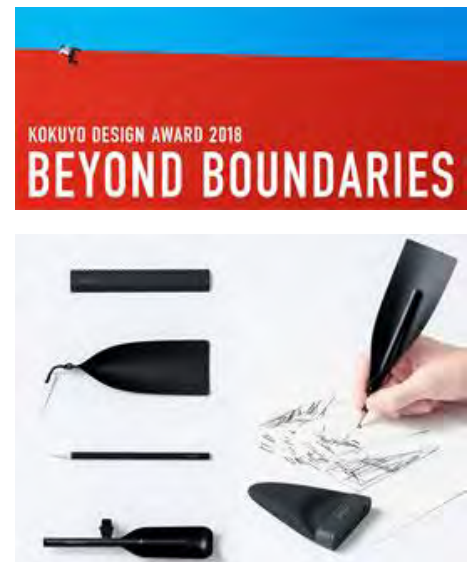
国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

#### テーマは「BEYOND BOUNDARIES」、コクヨデザインアワード2018

コクヨデザインアワードは、使う人の視点から考えられた商品デザインを広くユーザーから集めて、商品化を目指すコンペティション。顧客起点でのモノづくりをより強化することを目的に、2002年にスタートしました。

16回目を迎えた今回は、「BEYOND BOUNDARIES」をテーマにアイデアを募集。応募総数1,289点(国内766点、海外523点)から、一次審査を通過した10点を対象として、2019年1月18日に最終審査を開催。グランプリには、山崎タクマ氏の「音色鉛筆で描く世界」が選ばれ、紙と鉛筆の微小な摩擦音を増幅することで、文具を介して生まれる新たなコミュニケーションのかたちをあらわしたプロジェクトとして高い評価を受けました。

受賞作品を商品化する取り組みにも力を入れており、過去18作品を商品化。日々の生活に新しいストーリーを生み出すユニークなアイテムの数々に、注目が集まっています。



#### 全国で開催されている「いす-1グランプリ」でコクヨチームが激走

「いす-1グランプリ」は、事務用イスを使って3人1組で争う2時間耐久レース。日本事務用イスレース協会が主催する街おこしイベントで、全国各地の商店街で開催されています。

コクヨは各地のコクヨ販売・代理店と「チームコクヨ」を結成し、レース参加を通じて街の活性化に貢献。2018年は、コクヨ北海道販売と挑んだ北海道大会で優勝。その他、福井大会、秋田大会、埼玉羽生大会などでも好成績を収めました。

今後も事務用イスを販売する会社として積極的に参加し、大会を盛り上げ、各地の街おこしに貢献していきます。



#### 「ジョブスタディ」の取り組み

「ジョブスタディ」は、各業界のリーディングカンパニーの人事担当者が集い、本当に学生の役に立つセミナーは何なのかを議論し、そこで出た結論をもとに、自分たちで手づくりで開催している異業種合同セミナーです。コクヨはこのジョブスタディを中心となって立ち上げ、主幹事企業として運営全般を担っています。2005年のスタート当時は、「3年3割」という早期離職問題が大きな議論になっており、この課題を解決するために、採用活動を行う企業側も学生に対して正面からぶつかっていかうという想いで、「本音」と「手づくり」というコンセプトのプログラムを企画し、企業と学生が「働くことの意味」を語り合う双方向のコミュニケーションを実現してきました。以来14年間学生と真摯に向き合い続け、現在は各業界のリーディングカンパニー18社がジョブスタディに参加しています。

2018年を終えて14年間の成果を積み上げてきた「ジョブスタディ」。第4回「キャリア教育アワード」においては、社会に出る直前の学生が抱える幅広い課題について、多種多様な企業が理念を共有し、柔軟に対応している点を評価され「奨励賞」を受賞しました。しかし、景気の変動や新卒採用環境の変化など、学生や企業を取り巻く環境の変化は非常に目紛しく、売り手市場と言われる現在においても、双方間にある課題も数多く存在しています。そんな中、ジョブスタディとして、「今までと同じ」ではなく「今何が必要か・何をしたいか」ということを、参加企業18社の人事担当者が一堂に集まり本気で考えています。



## 担当者の声

### ジョブスタディが提供できる価値をより幅広く

インターンシップの乱立や採用の早期化、2021年度採用からの就職活動におけるルールの撤廃など、近年の新卒採用環境の目紛しい変化により、学生・企業・大学にそれぞれ新しい課題が増え、変化し続けていると感じます。ニーズや困り事が多様化してきた時代だからこそ、誰のために、何を解決できているのかを考えながら実施時期やプログラム内容を検討し、実施しています。

コクヨ社ではできることに限りがありますが、全18社で力を合わせて、他ではできない新しい価値・機会を創出していきます。



コクヨ 経営管理本部 HR部  
採用ユニット  
山本 浩貴

## コピー用紙で繋ぐ環境・福祉・地域 ～「エコラボはと・しが」の取り組み～

コクヨマーケティング、コクヨ工業滋賀では、「グリーン購入活動」に取り組んでおり、2006年6月からは地元の地域ネットワーク活動「滋賀グリーン活動ネットワーク」に参画しています。また、滋賀グリーン活動ネットワークの「グリーン購入評価手法研究会」が開発し、現在はNPO法人滋賀県社会就労事業振興センターが運営する、「エコラボはと・しが」の取り組みに、コクヨグループは当初から携わっています。

この事業は、毎日使用するコピー用紙を、段ボール箱の代わりにプラスチック製の箱を使用し、滋賀県内に約150ある障害者の働く共同作業所に配達をお願いするシステムで、環境(不要な包装の削減)と福祉(障害者雇用促進)の両立を目指して2007年にスタートしました。また、コピー用紙もコクヨ工業滋賀で製造しているものを使用することで、地域完結のできるモデルにしています。

「エコラボはと・しが」の取り組みは、独自性・継続性・発展性の観点で高く評価され、2011年には「第13回グリーン購入大賞」の大賞を受賞しました。参加企業・団体が増えることによって、ゴミの削減が進み、またコピー用紙だけでなく他のエコ商品・作業所でつくられた商品も配達することで、作業所で働く障害者の方の収入の向上が図られます。

滋賀県に事業所のある企業・団体の皆様、環境・福祉の先進県「滋賀県」オリジナルのCSR活動に参加してみませんか。



段ボール箱の代わりにプラスチック製の箱で配達します

## 各地で清掃活動と献血活動を実施

コクヨグループでは、オフィス・工場・配送センター・海外事業所各地において、清掃活動を通じた地域社会との協調を図っています。大阪本社オフィスでは年1回、地元自治会と協働でオフィス周辺の清掃活動を実施しています。

2011年からは「大阪マラソン」とタイアップし、大阪に来られる方を「きれいなまち」で迎えようという趣旨で、大阪市全域での清掃活動「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」が実施され、地元自治会と協働で参加しました。

また、国内の各拠点においては、社員による献血活動を1980年より実施しています。2018年は大阪府赤十字センター様に2回お越しいただき、午後のみ開催に関わらず52人が参加しました。

## 「みちのく未来基金」に協賛

コクヨ東北販売では、公益財団法人「みちのく未来基金」に対してサポーター企業として支援活動を行っています。この基金は、東日本大震災で親を亡くした子どもたちが高校卒業後に大学・短大・専門学校などに進学する際、学費の全額（年間上限300万円）を返済不要で給付しており、「東北の未来を創る子どもたちが夢や希望を諦めずに育つことが復興の真の礎となる」という趣旨に賛同し、2012年より継続して支援しています。

この基金は、奨学金の給付に留まらず定期的なイベントや年次面談・サポーター企業との交流などを通じ、「辛い体験をした子どもたちを一人にはしない」というあたたかい思いをもって運営されています。毎年3月には、新たに進学する学生のための「門出の会」、社会にはばたく卒業生を送る「旅立ちの会」が開催され、将来への抱負や目標を力強く語り合い、サポーター・関係者で祝うイベントも開催されます。

今後もコクヨ東北販売は、「みちのく未来基金」とともに子どもたちの進学の夢を応援します。



2018年3月開催の「第7期生の集い」

## 中高生を対象にした絵画コンペティション「キャンパスアートアワード2018」

コクヨは読売中高生新聞（発行所：読売新聞東京本社）と共催で、2015年から全国の中学生・高校生を対象に「キャンパスアートアワード」を開催しています。

募集テーマは、「My Sweet Home Town～地元のイチオシ～」。地域の風景・風俗・風習・行事・料理・菓子などを題材にすることで、若者が地元を向き、その魅力に気付き、発信する機会をつくるのが目的です。

応募作品の中からグランプリ・読売中高生新聞賞・コクヨ賞・地区優秀賞・AKB48チーム8賞・入選作品を選出。

グランプリは、久保山 莉恵さんの「赤い電車の春」に決定しました。



グランプリ作品「赤い電車の春」のキャンパスノートは数量限定でコクヨの公式オンラインショップにて販売



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ 社会

# 海外での貢献活動

### 中国での取り組み

#### 在上海日本国総領事館を通じ、ノートを贈与

2018年10月、在上海日本国総領事館は安徽省铜陵钟鸣小学、江西省南昌大学にて日本文化紹介レクチャーを実施した際に、コクヨのノートを同レクチャーに参加した生徒たちに寄贈しました。



#### 「小さなノートで大きな夢！」子どもたちに「夢」と「ノート」を手渡す

2018年10月21～23日、国営(上海)企業管理・国営商業(上海)・国営家具(中国)の上海オフィス・北京オフィス・深センから集まった社員6人が、湖南省桑植県海爾峪小学校を訪れ、子どもたちとの交流を図りました。

ボランティア社員は子どもたちと一緒にゲームをしたり、コクヨの文房具で工作をしたり、有意義な一日を過ごしました。

こうした子どもたちとの交流活動は、毎年行っています。自分たちがつくる文房具が、たくさん子どもたちを笑顔にする体験は、社員にとってもかけがえのない経験です。「商品を通じて世の中の役に立つ」という理念を社員に身をもって理解してもらうためにも、コクヨでは積極的に社員にボランティア活動に参加してもらっています。



#### 上海日本商エクラブ「桜の花基金」を通じ、「退院祝いセット」を寄贈

上海日本商エクラブは、2016年5月に上海市児童健康基金会との協力協定に基づき「桜の花基金」を設置し、斜視や先天性関節脱臼に悩む貧困家庭の患者児童の手術・治療費を支援しています。また、文房具やお菓子などを詰めて「退院祝いセット」として退院する子どもたちにプレゼントしています。

2018年11月28日、同商エクラブは上海市児童病院を訪れ、支援を受けた患者児童に直接退院祝いセットを手渡しました。この退院祝いセットには、コクヨから寄贈した文房具も含まれています。

#### 上海第四障害者学校の生徒たちが家具のショールームを見学

2018年の秋、上海市第四障害者学校の生徒たち計28名が国営家具上海ショールームを見学しました。家具の社員たちはこの日のために練習した簡単な手話で生徒たちに家具の製品を紹介し、生徒たちに椅子や机に触れてもらい、最新のオフィス環境を体験してもらいました。このような活動によって、生徒たちに社会の温かさを伝えました。





## インドでの取り組み

### 聖家族病院を通じた恵まれない子供たちへの文具の提供

2018年5月、コクヨカムリンは聖家族病院のNGOの協力を得て、スラムに住む恵まれない子供たちに文具の提供を行うと共に、基本的な衛生概念、人権など必要不可欠な意識についての手引きを行いました。

### タタ記念病院でのアートセラピー

インドの財閥であるタタ。そのタタ記念病院が2018年7月、白血病患者とその家族に対し、アートと絵画をセラピーとして活用するイベントを開催し、およそ50人の白血病と闘う患者さんとその家族が参加しました。コクヨカムリンはこのイベントに協賛し商品の提供を行いました。

### Spandan Foundation と共催による絵画イベント

2018年11月、子供たちの教育支援を目的に1990年に設立されたNGO、Spandan Foundation と共催で、ムンバイ市内で様々な障害を抱える子供たちのためにアートイベントを開催しました。コクヨカムリンはこのイベントに必要な画材を提供し、子供たちに笑顔を届けることができました。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ ガバナンス

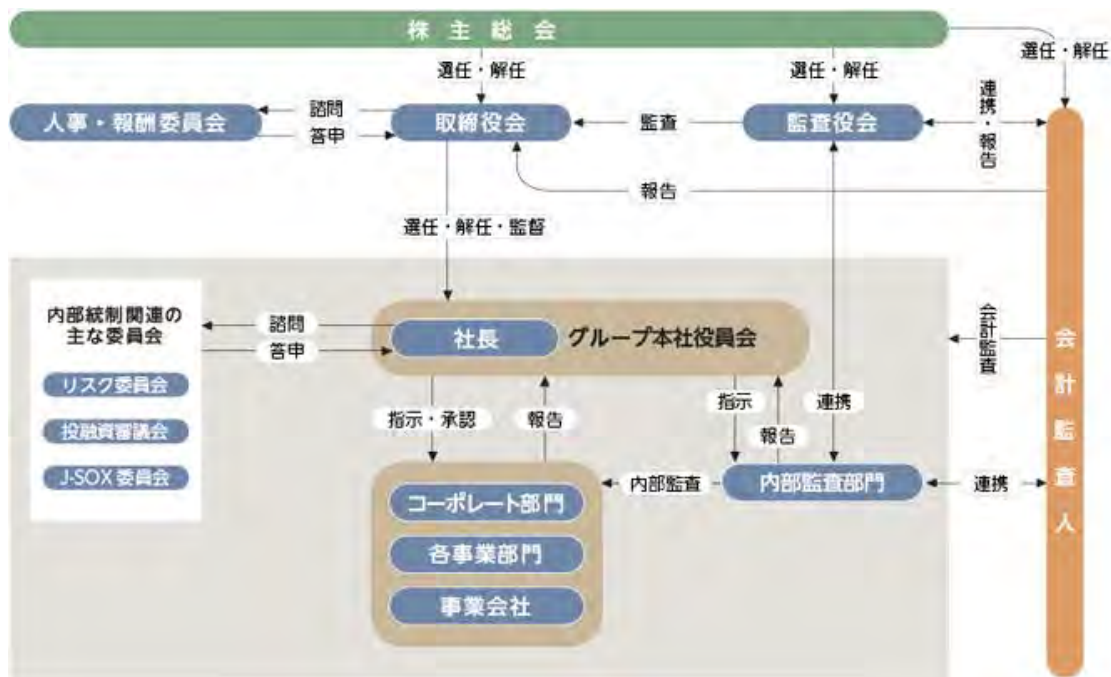
### コーポレートガバナンス

当社グループは、将来にわたる企業のありたい姿を「コクヨは、商品・サービスを通じて、顧客の創造性を向上する価値を提供することにより、人々のより良い「はたらく・まなぶ・生活する」Quality of Lifeの向上」を実現し、社会の役に立つ Life & Work Style Companyを目指す」とし、商品及びサービスを通じてお客様の知的活動をサポートし続ける企業グループでありたいと考えます。

当社グループは、持続的かつ長期的な企業価値の向上を実現するために、経営の効率性、透明性及び公正性の確保が重要な要素であると考え、経営体制の構築及び運営に当たっては、これらの継続的な充実に取り組んでまいります。

#### コーポレートガバナンス体制

透明で適切かつ効率的な経営の再現性と継続性が担保されることを目指し、コーポレートガバナンス体制を構築しています。また事業や業務が不正なく、誤りなく、効率よく遂行されるように、内部統制システムを構築・運用し・継続的に改善・充実に図っています。内部統制関連の主な委員会では、担当役員が委員長となり、複数の関連部署からメンバーを選出しており、それぞれの専門的見地からCSRにおける重要課題をグループ全体で組織的に推進・強化していくための取り組みを行っています。



詳しくは以下のページをご参照ください。

→ ホームページ「[株主・投資家情報](#) > [経営方針](#) > [コーポレートガバナンス](#)」

→ [コーポレートガバナンス報告書](#) (228kb)

#### 役員紹介

役名	氏名	生年月日	略歴
代表取締役会長	 黒田 章裕	1949/ 9/28	1972/4 1977/12 1981/12 1985/12 1987/12 1989/8 2011/3 2015/3 2017/5 2018/6 当社入社 同取締役 同常務取締役 同専務取締役 同代表取締役副社長 同代表取締役社長 同代表取締役、社長執行役員 同代表取締役、会長(現任) 一般社団法人関西経済同友会代表幹事 朝日放送グループホールディングス株式会社社外取締役(監査等委員)(現任)

代表取締役社長	 黒田 英邦	1976/ 1/10	2001/4 2005/7 2007/6 2009/3 2009/3 2011/3 2014/3 2015/3 2019/1	当社入社 コクヨオフィスシステム(株)取締役兼執行役員 同取締役兼常務執行役員 当社取締役 コクヨファニチャー(株)代表取締役社長 当社常務執行役員 同取締役、専務執行役員 同代表取締役、社長執行役員 同代表取締役、社長(現任)
取締役副会長	 黒田 康裕	1952/ 7/6	1975/4 1991/6 1993/6 1995/6 2009/3 2010/3 2011/3 2015/3	当社入社 同取締役 同常務取締役 同専務取締役 同代表取締役専務 同代表取締役副社長 同代表取締役、副社長執行役員 同取締役、副会長(現任)
取締役副社長	 森川 卓也	1959/ 10/7	1982/4 2005/6 2005/6 2011/3 2014/3 2015/3 2019/1	当社入社 同取締役 コクヨS&T(株)代表取締役社長 当社常務執行役員 同取締役、専務執行役員 同取締役、グループ上席執行役員、海外事業本部長 同取締役、副社長特命担当(海外、M&A)(現任)
取締役副社長	 宮垣 信幸	1956/ 3/10	1978/4 2012/3 2015/3 2019/1	当社入社 同監査役 同取締役、グループ上席執行役員、経営管理本部長 同取締役、副社長全社リスクマネジメント担当(現任)
取締役	 作田 久男	1944/ 9/6	1968/4 1995/6 1999/6 2001/6 2003/6 2011/6 2012/3 2012/6 2013/6 2016/7 2016/10	立石電機(株)(現オムロン(株))入社 同取締役 同執行役員常務、経営戦略室長 同執行役員専務、エレクトロニクスコンポーネンツビジネスカンパニー社長 同代表取締役社長 同代表取締役会長 当社社外取締役(現任) オムロン(株)取締役会長 ルネサスエレクトロニクス(株)代表取締役会長兼CEO NTKセラミック(株)代表取締役会長(現任) 同CEO(現任)
取締役	 浜田 宏	1959/ 5/30	1982/4 1995/1 2000/8 2006/5 2008/4 2011/11 2014/3 2015/5 2015/9	山下新日本汽船(株)(現(株)商船三井)入社 デル・コンピュータ(株)(現(株)デル)入社 同代表取締役社長、同米国本社副社長 (株)リヴァンプ代表パートナー HOYA(株)執行役最高執行責任者 同取締役兼代表執行役最高執行責任者 当社社外取締役(現任) アルヒグループ(株)(現アルヒ(株))代表取締役会長CEO(現任) 同代表取締役社長COO(現任)
取締役	 藤原 健嗣	1947/ 2/19	1969/4 2000/6 2003/6 2003/10 2009/6 2010/4 2014/6 2015/3 2015/6 2018/6	旭化成工業(株)(現旭化成(株))入社 同取締役 同常務執行役員 旭化成ケミカルズ(株)社長執行役員 旭化成(株)取締役、副社長執行役員 同代表取締役、取締役社長、社長執行役員 同副会長、(株)島津製作所社外取締役(現任) 当社社外取締役(現任) (株)IHI社外取締役(現任) 旭化成(株)相談役(現任)、コニカミノルタ(株)社外取締役(現任)
取締役		1963/	1985/4	日本銀行入行

	 増山 美佳	1/6	1991/9 1992/11 1997/6 2004/1 2016/10 2017/3 2019/3	Cap Gemini Sogeti 国際マーケティング・ディレクター ジェミニ・コンサルティング・ジャパンシニアコンサルタント エゴンゼンダー(株)入社 同パートナー 増山&Company合同会社代表社員社長(現任) サントリー食品インターナショナル(株)社外取締役(監査等委員)(現任) 当社社外取締役(現任)
監査役	 (左) 監査役 村田 守弘 (中央) 常勤監査役 前田 一年 (右) 監査役 安江 英行			

(注)1 取締役作田久男、同浜田宏、同藤原健嗣及び同増山美佳は、社外取締役である。  
 2 監査役前田一年、同村田守弘及び同安江英行は、社外監査役である。

## 役員報酬

当社では、株主や従業員をはじめとするステークホルダーに対して説明責任及び経営責任を果たせる透明性・合理性があり、短期的な成果のみならず中長期的な企業価値の向上も担保するような役員報酬制度の設計に努めています。報酬の水準は、優秀な人材を登用し、企業価値向上への動機付けや引き留めをおこなう額を設定しています。

### イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	238	238	—	—	—	5
社外取締役	46	46	—	—	—	3
監査役 (社外監査役を除く)	—	—	—	—	—	0
社外監査役	36	36	—	—	—	3

- (注)1. 当社は、2005年に退職慰労金制度を廃止している。  
 2. 取締役としての報酬等のほかに使用人分給与を受けている取締役はいない。  
 3. 取締役報酬の支給額は、2004年6月29日開催の第57回定時株主総会決議に基づく取締役の報酬限度額(月額40百万円以内)の範囲内である。  
 4. 監査役報酬の支給額は、1989年12月21日開催の第42回定時株主総会決議に基づく監査役の報酬限度額(月額6百万円以内)の範囲内である。

### ロ. 役員ごとの 結報酬等の総額等

結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

### ハ. 役員の報酬等の額又はその算定方法に係る決定に関する方針

当社の報酬制度は、株主の皆様や社員をはじめとしたステークホルダーに説明責任及び結果責任が果たせる透明性・合理性があり、中長期のコミットメントを後押しするような設計としております。報酬の水準は、優秀な人材を登用し、動機付け、引き留められる額を設定しております。  
 具体的には、役員の報酬は、固定報酬である基本報酬、会社の業績に関わる重要指標(売上高、営業利益等)と個人の業績評価に

連動する変動報酬により構成しております。変動報酬のうち一定額は、一定のルールに従って、当社株式を毎月取得しこの株式を在任期間中保有することとしております。

ただし、執行役員を兼務しない取締役及び監査役の報酬については、役割と独立性の観点から基本報酬のみを支給しております。個人別の報酬額については、人事・報酬委員会による答申を経た上で、取締役会において決定しております。なお、2019年3月28日開催の第72回定時株主総会において、取締役の報酬限度額は、年額6億円以内とすることを決議しております。また、取締役(社外取締役を除く。)及び執行役員を対象に、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、年額1億円以内の譲渡制限付株式を付与する長期インセンティブ制度を導入することを決議しております。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ ガバナンス

# コンプライアンスの推進

### 考え方

コクヨグループは、事業活動を行っていくうえで、商品の品質、取引関連、環境、労務、安全衛生、会計基準や税務などにおいて様々な法規制の適用を受けています。法規制を遵守し、社会倫理に従って企業活動を行うために、社員一人ひとりが遵守すべき「コクヨグループ行動基準」を制定し、その浸透を図ることでコンプライアンス体制の構築とその遵守に努めております。

### コンプライアンス推進の取り組み

#### 内部通報制度「コクヨグループホットライン」の運用

コンプライアンスや企業倫理に関する問題で、職場内では相談・解決し難いものについて相談できる窓口として「コクヨグループホットライン」を設置しています。日本国内だけでなく、海外拠点におけるコクヨグループ社員も利用できるグローバル対応の制度として、運用を行っています。

#### 海外グループ会社で継続的にコンプライアンス研修を開催

タイでステーションナリーの製造を行うコクヨ-IKタイランドでは、コンプライアンス意識の向上を目的に、2013年以降年一回のコンプライアンス研修会を継続的に開催しています。この研修会は社員一人ひとりにコンプライアンスを浸透させるため、役員や管理職はもちろん、全社員が参加しています。

海外展開を図る企業にとって、海外のグループ会社における管理体制は大きな課題であり、特にコンプライアンス意識の醸成・浸透はますます重要になっています。コクヨグループは今後も、グループ一体となって法令や規則を遵守し、社会倫理に従った企業活動を行うため、海外拠点においても現地事情に合致したコンプライアンス意識向上のための研修会を積極的に行ってまいります。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## ■ ガバナンス

# リスクマネジメント

### 考え方

2015年の経営統合を機に、コクヨグループ全体でのリスクマネジメントを推進する組織を立ち上げ、取り組みを開始しました。この取り組みで目指したことは、グループ視点によるリスクマネジメントサイクルを確立させること。まず、「コクヨグループ全体にどのようなリスクが存在するのか改めて認識する」ことから始まり、優先順位付けや対応の方針を全社最適で検討し、対応の推進を行いました。今後は、これらの取り組みの中で特に重要と位置づけられたテーマや、組織全体に関わるテーマを明確にし、グループ全体での取り組みをさらに進め、リスクマネジメントの有効性と効率性を高めることを目指します。

※ 関連情報: [「事業等のリスク」](#)

### 知的財産権に対する基本的な考え方

競合他社との差別化を図るための戦略の一つとして、知的財産権の取得を推奨し、同時に他社の知的財産権を尊重すべく、下記の取り組みを行っています。

#### 1) 知的財産権管理・運用体制

国内及び国外子会社及び関連会社の知的財産にかかる業務を法務部知的財産グループにおいて一括管理し知的財産権活用及び戦略の標準化及び一元化を目指しています。

同グループにおいて、発明・デザイン・商標の権利化業務、他社の知的財産権の侵害を防ぐべく徹底した事前調査の遂行、当社が保有する知的財産権保護のための日常的な他社製品のモニタリングに加え、他社と争いが生じた場合には、マネジメントとの連携のもと、迅速かつ最適な解決を目指し対応しています。

#### 2) 知的財産権の保護及び法令遵守

「コクヨグループ行動基準」において、他社の知的財産権を尊重することを規定するとともに、知的財産グループにおいて、他社の権利の侵害を予防・回避すべく、他社の権利の調査・分析・精査を行う体制を確立・運営しています。また、開発部門に対し、随時研修や日常の業務を通じて、他社の知的財産権尊重及び法令遵守意識向上のための啓発活動を行っています。

#### 3) 知的財産権の創造・活用の推進

知的財産グループと開発部門は、開発の初期段階から密接な連携を図ることにより、市場での当社製品の優位性の向上を目指すべく、競合他社製品との差別化に貢献する発明の創造と発掘に邁進しています。また、特許法第33条の趣旨に応ずるべく、職務発明報奨制度を社内規定として定め、顧客満足度の向上と当社の発展に資する発明を奨励しています。

### 情報セキュリティ対策

当社では、情報セキュリティ基本方針のもと、情報セキュリティ管理体制を構築しています。事業を進めるうえで保有する機密情報や顧客情報や個人情報等を重要な情報資産ととらえて、取扱いに関する管理を強化するとともに、情報システムのウィルス感染やサイバー攻撃によるシステム障害、社外への情報漏洩に対する対策を実施しています。

### 情報セキュリティ基本方針

- ①情報資産に対する不正アクセス・情報資産の紛失・改ざん・漏洩などを防止するため、適切な安全対策を講じます。
- ②情報セキュリティに関する法令・その他の規範を遵守します。
- ③個人情報については、コクヨグループの定めている「個人情報保護方針」に準じて管理します。
- ④部署の情報資産を利用する者に対し、情報セキュリティの重要性に関する教育を実施し、この基本方針の周知徹底をはかります。
- ⑤部署における「情報セキュリティマネジメントシステム」を確立し、継続的な改善に努めます。

## BCP※(事業継続計画)の策定と実施

BCPとは、災害や事故などの不測の事態が発生した場合でも、事業をできる限り継続させる、あるいは中断しても可能な限り短時間での復旧・再開を目指して、災害や事故などの発生後でも事業を継続させていくための行動プランを指します。

コクヨグループでは、災害や感染症などの危機発生時でも、より安定的な商品供給を実現するため、グループ一体となって危機管理の徹底に取り組み、事業継続マネジメントの推進を継続していきます。

※BCP: Business continuity planning=事業継続計画

### ファニチャー事業本部によるBCP有事対応訓練

2017年12月6日、ファニチャー事業本部の「BCP有事対応訓練」を実施しました。今回の訓練は「東南海地震」が発災し、西日本エリアが事業継続に大きな影響がある状況を想定し、品川SSTオフィスにファニチャー事業継続対策本部を立ち上げた場合の初動対応の実効性などを検証するものです。東京地区、西日本地区合わせて総勢73人が参加する大規模な訓練となりました。

東日本大震災では十分機能しなかった体制や行動手順を一から見直しており、今回の訓練はその内容の確認が目的です。訓練で明らかになった課題については解決策を検討し、体制・行動手順書を見直し、より実効性の高いものに改善していきます。



「機能単位」で分けられたチームごとに、提示された被災状況から定めた行動手順が実行できるかを議論

### ステーションナリー事業に関わるBCP(事業継続計画)訓練を実施

2018年7月と11月、ステーションナリー事業に関わるグループ会社でBCP訓練を実施しました。

ステーションナリー事業では、有事の際に事業継続可否の判断ができるよう、関連する組織が連携して情報を集約する必要があるため、部署や会社単位ではなく、機能別にチームを構成しています。7月に行った1回目は、机上訓練で課題を抽出。2回目は、有事の際にオフィスに出社できない状態を想定し、ビデオ会議アプリを使った訓練を実施しました。

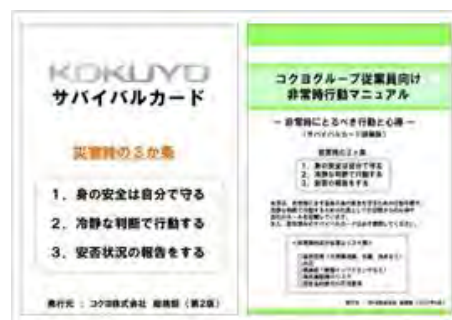
有事の際に実際に機能するBCPとなるよう、今後も改善に取り組んでいきます。

### 災害発生時の初動対応

大規模災害が発生した際に、社員が慌てずに冷静な判断を行うことができるよう、災害発生時にとるべき行動の手順をまとめた「サバイバルカード」を全社員に配布し、常に持ち歩くよう喚起しています。

サバイバルカードには、災害時の3か条(1.身の安全は自分で守る、2.冷静な判断で行動する、3.安否状況の報告をする)の他、携帯各社の災害用伝言板の閲覧方法や、万が一の場合に本人確認ができる情報欄などを記載しています。

また、サバイバルカードを詳細化した「従業員向け非常時行動マニュアル」を、社員がいつでも閲覧できるイントラネット上に掲示し、日頃から災害への対策を心がけるよう推進しています。



「サバイバルカード(左)」と「従業員向け非常時行動マニュアル(右)」

### 安否確認システムの構築と訓練の実施

災害発生時に、グループ社員の安否確認を迅速に行う仕組みとして、各人が所有する携帯電話・パソコン・固定電話などの連絡手段を使った安否確認システムを2006年より運用しています。2011年3月に発生した東日本大震災の直後は、電話やメールが一時的に使用できない状況でしたが、大勢の社員の安否確認を同時に行うには、現在このシステムに代わるものは考えられず、登録不備による未配信が無いよう周知徹底し、継続的に訓練を実施しています。

## 事業所防災訓練の実施

いざというときに社員が自ら安全行動が取れるように、日常的な地震対策とともに、平日に大規模地震が発生した場合を想定した訓練を定期的を実施しています。

大阪本社と品川オフィスにおいて、緊急地震速報後に、机の下に隠れるなど安全確保行動の確認をした他、地震発生後にオフィス内で火災が発生したと仮定し、初期消火訓練から消防署への通報・防災センターへの連絡、初期消火断念による全館避難までの訓練も併せて実施しています。

今後も、拠点ごとの危機対応能力の向上に努めていきます。



大阪本社での防災訓練の様子

☑️ コクヨCSR憲章	☑️ 会社概要	☑️ コクヨが主に取り組む領域	☑️ コクヨの取り組みとその歩み	☑️ 未来と社会のための取り組み	☑️ コクヨのさまざまな取り組み	☑️ 2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☑️ コクヨのCSR	☑️ 環境	☑️ 社会	☑️ ガバナンス	☑️ 社外からの評価	☑️ 対照表	

## ■ ガバナンス

### 株主とともに

企業価値を高めることを株主・投資家の皆様への責務と認識し、透明かつ健全な企業経営を堅持するとともに、正確かつ迅速な情報開示に努めています。

#### 考え方

#### 配当に関する方針と実績

当社は、中長期にわたる企業価値の最大化に向けて、持続的な事業の成長に努め、株主への利益配当額の向上に取り組んでおります。当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。第72期の期末配当金については、1株当たり16円00銭とし、中間配当16円00銭と合わせ年間32円00銭の配当を実施しました。

内部留保資金については、今後の成長戦略への投資に活用してまいります。当社は、取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当社は連結配当規制適用会社であります。

#### 経営活動の透明性向上

##### 1) IR活動

株主の皆様をはじめとするすべての投資家の皆様に、当社グループの事業内容・企業姿勢・将来像などを平等・正確にお伝えするとともに、双方向のコミュニケーションを図っています。2018年は以下のIR活動を実施しました。

##### ■ 機関投資家向け：

決算説明会を年2回開催し、代表取締役社長が当社グループの決算情報及び戦略について説明を行いました。また、個別ミーティングや、外国人投資家向けカンファレンスなどを通じて、当社グループの状況を説明しました。

##### ■ 個人投資家向け：

会社説明とともに、商品開発担当者による商品開発ストーリーを紹介し、当社に対する理解度の向上や親近感の醸成を図りました。

今後も積極的にIR活動に取り組み、企業価値を高めていきます。

##### 2) 情報公開

当社では、当社が上場する証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」等（以下、「適時開示規則」という）に従い、情報開示を行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、金融商品取引法に定められたフェアディスクロージャー・ルールを遵守し、投資家の皆様の理解の一助となると判断した情報については適切な方法によりできる限り積極的かつ公平に開示することを基本方針としています。

※ 関連情報：[「IRニュース」](#)

#### 決算説明会後に、SSTライブオフィス見学会を開催

2018年8月2日に、品川シーズンテラスカンファレンスホールにて、機関投資家及びアナリスト等を対象とした「2018年12月期第2四半期決算説明会」を開催。約40名の機関投資家及びアナリストに参加いただきました。

説明会終了後には、ライブオフィス見学会を開催。参加者は、オフィス構築のコンセプトやオフィスにおける社員の働き方などに非常に関心を持った様子で、熱心に質問をされていました。

今後のIR活動においても、数字の説明に終始することなく、当社の実物大の姿を伝えられるように取り組んでいきます。



## 株主優待制度

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、コクヨグループに対するご理解を一層深めていただくため、当社株式を500株以上保有の株主様に対して株主優待制度を設けており、年1回コクヨグループ商品をお送りしています。



2018年12月末株主様向け優待商品

## 個人投資家向けIR「会社説明会、テープのり<ドットライナー>開発ストーリー」開催

コクヨではファン株主の獲得を目的に定期的に個人投資家向け説明会を開催しており、2018年には計4回開催しました。

一般的に個人投資家は、株式売買による差益金や配当金を得ることを株式投資の目的にしているため、株式の保有期間は不安定とされています。しかしコクヨでは、個人投資家の皆様にコクヨのファンになっていただくことにより、株式のより長期の保有が期待できるとともに、商品やサービスの優良なお客様になっていただくことにも繋がると考えています。

そこで、会社概要や今後の事業戦略といった、通常の投資家向け説明会で行う情報提供に加えて、商品開発ストーリーを合わせて説明しています。

説明会では、第1部としてコクヨグループの沿革・各事業の概要・財務状況・今後の戦略などについて説明しました。そして第2部では、ステーションリー関連事業の商品担当者から、「キャンパスノート」や、「テープのり<ドットライナー>」について、開発の狙いや秘話などを紹介しました

出席いただいた個人投資家の皆様からは、事業や財務に関するより詳細な情報提供への要望の他、コクヨの商品づくりに関しても多くのご意見・ご感想をいただきました。



☛コクヨCSR憲章	☛会社概要	☛コクヨが主に取り組む領域	☛コクヨの取り組みとその歩み	☛未来と社会のための取り組み	☛コクヨのさまざまな取り組み	☛2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☛コクヨのCSR	☛環境	☛社会	☛ガバナンス	☛社外からの評価	☛対照表	

## ■ 社外からの評価

### 外部からの表彰・評価

#### 表彰

#### 働き方改革「ワクワク、スマートワーク」時差Biz推進賞受賞

新しい働き方へのチャレンジ「ワクワク、スマートワーク」の取り組みが、東京都が主催する時差 Biz推進賞のワークスタイル部門を受賞しました。2018年7月23日から10月26日の3カ月間、社員が働くことにワクワクしながら、多様な働き方を継続的に考えていく機会にすることをテーマに掲げ、フレックスタイム、在宅勤務、テレワークなどを活用しながら、通勤時間削減によるライフ時間の有効活用を目指したものです。これらの取り組みが評価され、今回の受賞に至りました。



#### コクヨ「ing」がデザイン賞受賞など、2冠を獲得

オフィスチェア「ing(イング)」が、ドイツの国際的デザイン賞「German Design Award 2019」を受賞するとともに、日本工業デザイナー協会による「JIDAデザインミュージアムセレクション vol.20」の選定商品となりました。

「German Design Award」は、世界各国のデザイン賞を受賞した商品の中から、The German Design Councilの推薦を受けた商品のみが受賞候補となる、「賞の中の賞」とも呼ばれる権威ある賞です。

「JIDAデザインミュージアムセレクション」は、社会に寄与する質の高いデザインの商品を選定・表彰するもので、「ing」はゴールドセレクション賞を受賞しました。



#### 「オルガテック2018」コクヨブースが、「FRAME Awards Orgatec」の2部門でグランプリ受賞

2018年10月23日から27日までドイツで開催された「オルガテック2018」(ケルン国際オフィス家具見本市2018)において、「ing(イング)」の展示ブースが、オランダのインテリアデザイン雑誌『FRAME』が選ぶ「FRAME Awards Orgatec」のグランプリを獲得しました。

「FRAME Awards Orgatec」は、出展した各社のブースを対象に、カラーリング部門、照明部門、マテリアル部門、スタンド部門(総合評価)の4部門で審査を実施。コクヨは照明部門とスタンド部門(総合評価)の2部門でグランプリを同時受賞するという快挙を成し遂げました。



## 優秀ファシリティマネジメント賞受賞

ファニチャー事業本部が手掛けた、キューピー「仙川キューポート」が、第12回日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）を受賞し、2018年2月22日にJFMAフォーラム会場で表彰式が行われました。

「仙川キューポート」は、2014年度日経ニューオフィス賞の経済産業大臣賞も獲得していますが、今回は4年間にわたる「仙川キューポート」のオフィスづくりと、オフィスの管理運営実績についての評価をいただき、「サービス提供者」としてココヨが表彰されたものです。

## 「しゅくだいやる気ペン」、総務省「異能ジェネレーションアワード2018」を受賞

2018年10月24日、開発中のIoT文具「しゅくだいやる気ペン」が、総務省の主導する「異能vation(いのうべーション)プログラム」のジェネレーションアワードを受賞しました。この賞は、ICT分野における、未来がよりよくなるような独創的なアイデアに対して贈られるものです。応募総数は10,440点で、全10分野から各1点が選出されました。

この受賞によりチームメンバーのモチベーションも一段とアップ。2019年の発売に向け、期待を超える商品に仕上げていきたいと思えます。

## 防災ソリューション事業部『ソナエル』が第59回全国カタログ展カタログ部門で銀賞など2つの受賞

防災ソリューション事業部が制作した商品カタログ『ソナエル vol.11』が、第59回全国カタログ展においてカタログ部門賞の銀賞を獲得しました。

また、第39回日本BtoB広告賞において、製品カタログの部＜総合＞で銀賞を受賞しました。

『ソナエルvol.11』は、ストーリー仕立てになった解説を読み進めながら防災プランを組み立てることができるように意図されたガイドブックカタログです。

今回の経験を糧にして、さらにお客様に寄り添うカタログとなれるよう、今後も進化を続けていきます。



## 2018年グッドデザイン賞、ココヨから15商品受賞

2018年グッドデザイン賞が10月3日に発表され、ココヨから15商品が受賞しました。なかでも審査委員会から特に高い評価を得た商品が選ばれるグッドデザイン・ベスト100に、オフィス備蓄防災システム「PARTS-FIT」が、10年以上継続的に提供され、広く支持されている商品やサービスに贈られるロングライフデザイン賞に、「スクラップブックD」が選出されました。これらの商品は、10月31日から開催された「GOOD DESIGN EXHIBITION 2018」の特別展示で紹介され、多くの来場者からの注目を集めていました。



## ライフスタイルショップ「THINK OF THINGS」のグラフィックデザインがADC賞を受賞

ココヨが運営するライフスタイルショップ「THINK OF THINGS」のジェネラルグラフィック、パッケージデザイン、マーク&ロゴが、東京アートディレクターズクラブが選出する「2018ADC賞」に決定し、2018年12月18日に授賞式が行われました。

「ADC賞」は、日本の広告やグラフィックデザインの先端の動向を反映する賞として国内外の注目を集める賞であり、今年度は2017年5月から2018年4月までの1年間に発表、使用、掲載された約8,000点の中から、13点が受賞作として選出されました。



## ■ コクヨ 金井あき「JAGDA新人賞2018」受賞

コクヨの社員、クリエイティブセンターの金井あきが、日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)が選出する「JAGDA新人賞 2018」を受賞し、2018年6月29日に授賞式が行われました。

金井あきは、2008年にコクヨに入社。上海万国博覧会日本産業館「未来郵便局」やライフスタイルショップ「THINK OF THINGS」のアートディレクション、コクヨの国内外拠点のサイン計画やインナーブランディングの企画・デザインなど、数多くの場でその才能を発揮してきました。今後もグラフィックデザインに軸を置きながら、社内外の創作活動に取り組んでいきます。

## ■ 「結の森プロジェクト」が生物多様性アクション大賞2018特別賞「グリーンウェイブ賞」を受賞しました

高知県四万十川流域での人工林の再生と、その人工林を守る地域の活性化を目的とした「結の森プロジェクト」が、生物多様性アクション大賞2018の特別賞「グリーンウェイブ賞」を受賞しました。

生物多様性アクション大賞は、「国連生物多様性の10年」の日本における広報活動の一環として2013年にスタートしたもので、生物多様性保全につながる活動を発掘し、応援し、多くの人に知ってもらうことを目標としています。特別賞である「グリーンウェイブ賞」は、木を植えたり、森林や樹木の手入れをしたりするような、自然と触れ合いながら学びあう活動を表彰するものです。



## ■ 「ヨシでびわ湖を守る リエデンプロジェクト」第20回日本水大賞【経済産業大臣賞】受賞

2007年に発足した「リエデンプロジェクト」は、ヨシ原の保全とヨシの活用を目的として、多様な事業者がゆるやかに繋がる協働の実現(2018年7月現在127社が賛同)、ヨシを商品の原料に使うエコ文具「リエデンシリーズ」の開発・製造・販売、収益の一部を地域活動団体などに寄付することなどを目的としたプロジェクトです。

企業本来のビジネス活動と広範な地域連携活動とを結びつけたこの取り組みは高く評価され、2018年6月26日、水循環の健全化に貢献する取り組みを表彰する「日本水大賞」において「経済産業大臣賞」を受賞しました。



経済産業副大臣と記念撮影

## ■ 「ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト」が第5回「しが生物多様性大賞(企業部門)」 大賞を受賞

「しが生物多様性大賞」とは、滋賀県で、2015年に「生物多様性しが戦略」が策定され、社会経済活動に生物多様性を組み込むことを目標に掲げ、この目標を達成するため、企業部門、一般部門、協働部門の3部門を設け、優れた生物多様性に関する活動を表彰する制度です。

「ヨシでびわ湖を守る リエデンプロジェクト」が第5回「しが生物多様性大賞(企業部門)」 大賞を受賞し、2018年2月7日 滋賀県庁にて授賞式が行われました。



滋賀県庁にて授賞式



## コクヨ工業滋賀 「滋賀県低炭素社会づくり賞(事業者行動計画書制度部門)」 受賞

「滋賀県低炭素社会づくり賞」とは、事業者行動計画書制度において、事業者行動計画書および報告書を提出した者のうち、事業活動における自社の温室効果ガス排出量の削減に関して他の事業者の模範となる優れた取り組みを行っている事業者を表彰する制度で2012年から実施されています。

コクヨ工業滋賀が「滋賀県低炭素社会づくり賞(事業者行動計画書制度部門)」を受賞し、2018年2月9日 滋賀県庁にて授賞式がおこなわれました。

### 【評価ポイント】

- ・リアルタイムでの電力使用量の見える化を省エネ効果の把握や、歩留まり改善および生産性向上の評価指標の1つとして活用。
- ・社内改善提案制度にて社員から挙げた節電提案を元に改善を行い、提案→実施→評価の好サイクルを回し、全従業員の意識向上と省エネ取組を推進。
- ・「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」を立ち上げ、ボランティア活動を展開。温室効果ガス固定効果のあるヨシを使った紙製品文具の開発、製造、販売を行い、自然環境保全の啓発をしながら低炭素社会づくりも推進。



滋賀県庁にて授賞式

## 評価

## 経済産業省「健康経営優良法人認定制度」

回答社数1800社(うち上場企業859社)の中で、上位10%以内に入る得点を獲得。上位50%超60%以内だった昨年から大きく評価を上げました。



## 日経「スマートワーク経営調査」結果発表

日本経済新聞社が「働きやすさ」の視点でまとめた「スマートワーク経営調査」によると、コクヨの総得点の偏差値は55以上60未満となりました(有効回答数663社)。

調査は、多様で柔軟な働き方の実現、新規事業などを生み出す体制、市場を開拓する力の3要素に加え、コーポレートガバナンスなどの経営基盤も加えて各社の総得点を算出し、格付けしたものです。

コクヨは「3.5星」の格付となりました。



## 経団連「働き方改革事例集」に掲載されました

一人ひとりの社員が、自分らしく生き生きと輝ける新たな働き方にチャレンジした「ワクワク、スマートワーク」をはじめとする取り組みが、日本経済団体連合会(経団連)リリースの『働き方改革事例集』に取り上げられました。

制度や仕組みだけでなく、社員自身が主体的に参加するトライアル活動やCROSS!!!イベントなど、さまざまなトライ&エラーを重ねながら、よりよい働き方を目指している点が評価されたものです。これからも、「日本でいちばん働き方が上手な会社」を目指してチャレンジを続けていきます。

※ 関連情報:「[働き方改革事例集](#)」



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みとその歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2018年 コクヨの取り組みのご紹介
❖コクヨのCSR	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

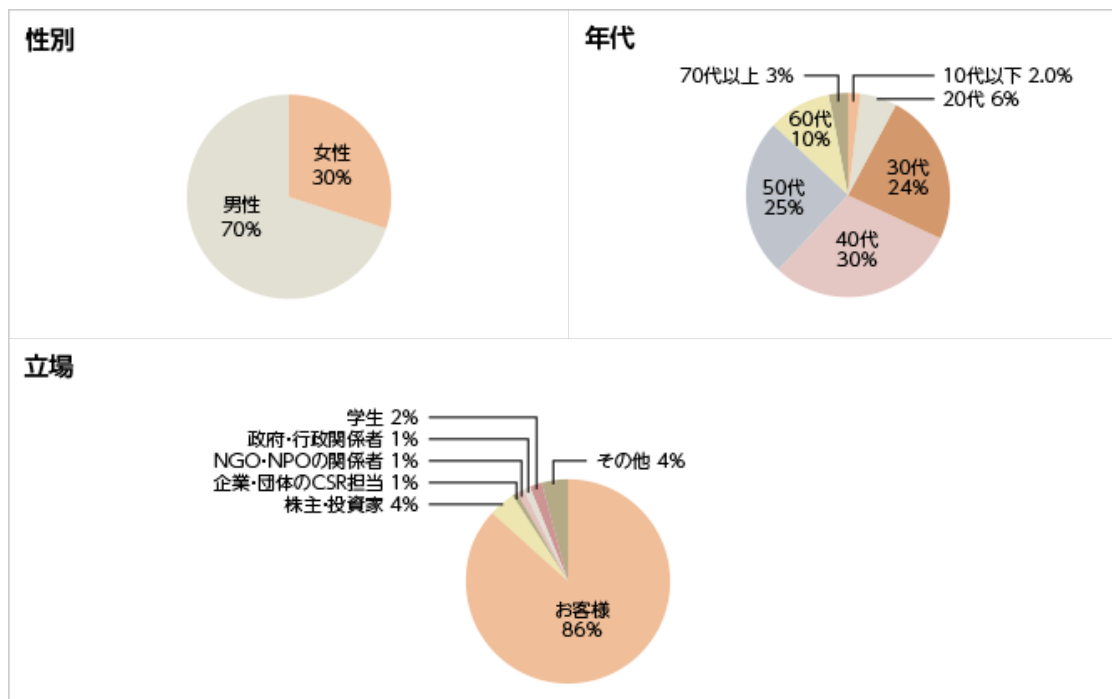
## ■ 社外からの評価

### 「CSR報告書2018」アンケート結果

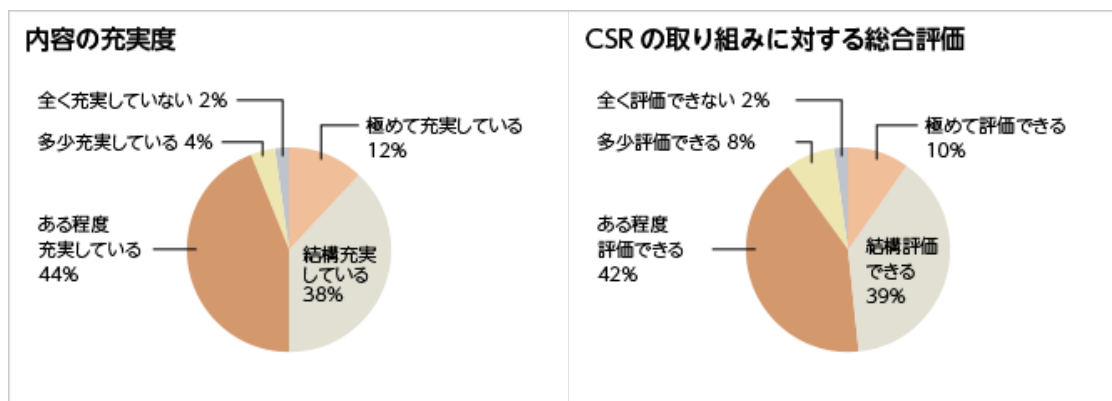
コクヨグループでは、今後の活動や報告書の改善に反映させるため、広く社内外の方々からご意見をいただくアンケートをウェブ上で実施しています。「CSR報告書2018」に対するアンケート結果をご報告いたします。ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

有効回答数：245件

#### アンケートにご回答いただいた方の属性



#### アンケート結果



☑️コクヨCSR憲章	☑️会社概要	☑️コクヨが主に取り組む領域	☑️コクヨの取り組みと、その歩み	☑️未来と社会のための取り組み	☑️コクヨのさまざまな取り組み	☑️2018年 コクヨの取り組みのご紹介
☑️コクヨのCSR	☑️環境	☑️社会	☑️ガバナンス	☑️社外からの評価	☑️対照表	

## ■ 対照表

# 対照表

### GRI Standards対照表

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
一般開示項目				
102: 一般開示項目				
1. 組織のプロフィール	○	102-1	組織の名称	<a href="#">基本情報</a>
	○	102-2	活動、ブランド、製品、サービス	<a href="#">事業概要</a>
	○	102-3	組織の本社の所在地	<a href="#">基本情報</a>
	○	102-4	事業所の所在地	<a href="#">グループ一覧</a>
	○	102-5	所有形態および法人格	<a href="#">基本情報</a>
	○	102-6	参入市場	<a href="#">事業概要</a>
	○	102-7	組織の規模	<a href="#">基本情報</a> <a href="#">グループ一覧</a> <a href="#">業績ハイライト</a> <a href="#">財政状況</a>
	○	102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	<a href="#">データ集 社会</a>
	○	102-9	サプライチェーン	<a href="#">サプライヤーとの取り組み</a>
	○	102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	
	○	102-11	予防原則または予防的アプローチ	<a href="#">労働安全衛生の取り組み</a>
	○	102-12	外部イニシアティブ	<a href="#">外部からの表彰・評価</a>
	○	102-13	団体の会員資格	
2. 戦略	○	102-14	上級意思決定者の声明	<a href="#">トップメッセージ</a>
		102-15	重要なインパクト、リスク、機会	<a href="#">有価証券報告書 p14</a>  (1.39MB)
3. 倫理と誠実性	○	102-16	価値観、理念、行動基準・規範	<a href="#">コクヨCSR憲章</a> <a href="#">コクヨグループ行動基準</a>
		102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	<a href="#">有価証券報告書 p35</a>  (1.39MB)
4. ガバナンス	○	102-18	ガバナンス構造	<a href="#">CSRの基本的な考え方</a> <a href="#">コーポレートガバナンス</a>
		102-19	権限移譲	
		102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	
		102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	
		102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	<a href="#">有価証券報告書 p32</a>  (1.39MB)
		102-23	最高ガバナンス機関の議長	<a href="#">有価証券報告書 p32</a>  (1.39MB)

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
		102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	
		102-25	利益相反	
		102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	
		102-27	最高ガバナンス機関の集合的知見	
		102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	
		102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	<a href="#">有価証券報告書 p14、32</a>  (1.39MB)
		102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	
		102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	
		102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	
		102-33	重大な懸念事項の伝達	
		102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	
		102-35	報酬方針	<a href="#">有価証券報告書 p34</a>  (1.39MB)
		102-36	報酬の決定プロセス	<a href="#">有価証券報告書 p34</a>  (1.39MB)
		102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	<a href="#">有価証券報告書 p34</a>  (1.39MB)
		102-38	年間報酬総額の比率	
		102-39	年間報酬総額比率の増加率	
5. ステークホルダー・エンゲージメント	○	102-40	ステークホルダー・グループのリスト	<a href="#">ステークホルダーとのかかわり</a>
	○	102-41	団体交渉協定	<a href="#">有価証券報告書 p10</a>  (1.39MB)
	○	102-42	ステークホルダーの特定および選定	<a href="#">ステークホルダーとのかかわり</a>
	○	102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	<a href="#">ステークホルダーとのかかわり</a> <a href="#">お客様との対話</a> <a href="#">「CSR報告書2018」アンケート結果</a>
	○	102-44	提起された重要な項目および懸念	<a href="#">「CSR報告書2018」アンケート結果</a>
6. 報告	○	102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	<a href="#">コクヨグループ</a>
	○	102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	
	○	102-47	マテリアルな項目のリスト	
	○	102-48	情報の再記述	
	○	102-49	報告における変更	
	○	102-50	報告期間	<a href="#">CSRレポート p2</a>  (11.0MB)
	○	102-51	前回発行した報告書の日付	<a href="#">CSRレポート p2</a>  (11.0MB)
	○	102-52	報告サイクル	<a href="#">CSRレポート p2</a>  (11.0MB)
	○	102-53	報告書に関する質問の窓口	<a href="#">報告書に対する問い合わせはこちら</a>
	○	102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	
	○	102-55	内容索引	<a href="#">対照表</a>
	○	102-56	外部保証	<a href="#">環境経営マネジメントと第三者保証</a>
103: マネジメント手法				

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
		103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	
		103-2	マネジメント手法とその要素	
		103-3	マネジメント手法の評価	
マテリアルな項目				
200: 経済				
201: 経済パフォーマンス		201-1	創出、分配した直接的経済価値	<a href="#">業績ハイライト</a>
		201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	
		201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	<a href="#">有価証券報告書 p71</a> (1.39MB)
		201-4	政府から受けた資金援助	
202: 地域での存在感		202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	
		202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	
203: 間接的な経済的インパクト		203-1	インフラ投資および支援サービス	
		203-2	著しい間接的な経済的インパクト	
204: 調達慣行		204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	
205: 腐敗防止		205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	
		205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	
		205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	
206: 反競争的行為		206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	
300: 環境				
301: 原材料		301-1	使用原材料の重量または体積	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		301-2	使用したリサイクル材料	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		301-3	再生利用された製品と梱包材	
302: エネルギー		302-1	組織内のエネルギー消費量	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-2	組織外のエネルギー消費量	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-3	エネルギー原単位	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-4	エネルギー消費量の削減	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	
303: 水		303-1	水源別の取水量	<a href="#">拠点別レポート</a>
		303-2	取水によって著しい影響を受ける水源	
		303-3	リサイクル・リユースした水	
304: 生物多様性		304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	<a href="#">結の森</a> <a href="#">ReEDENプロジェクト</a>
		304-2	動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	
		304-3	生息地の保護・復元	<a href="#">結の森</a>
		304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	



指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
305: 大気への排出		305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	
		305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
306: 排水および廃棄物		306-1	排水の水質および排出先	<a href="#">拠点別レポート</a>
		306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		306-3	重大な漏出	
		306-4	有害廃棄物の輸送	
		306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	
307: 環境コンプライアンス		307-1	環境法規制の違反	<a href="#">法遵守と汚染の予防</a>
308: サプライヤーの環境面のアセスメント		308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	
		308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	
400: 社会				
401: 雇用		401-1	従業員の新規雇用と離職	<a href="#">データ集 社会</a>
		401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	
		401-3	育児休暇	<a href="#">データ集 社会</a>
402: 労使関係		402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	
403: 労働安全衛生		403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加	<a href="#">有価証券報告書 p10</a> (1.39MB)
		403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	<a href="#">データ集 社会</a>
		403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者	
		403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項	
404: 研修と教育		404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	
		404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	<a href="#">人材育成プログラム</a>
		404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	
405: ダイバーシティと機会均等		405-1	ガバナンス機関および従業員の イバーシティ	<a href="#">データ集 社会</a>
		405-2	基本給と報酬総額の男女比	
406: 非差別		406-1	差別事例と実施した救済措置	

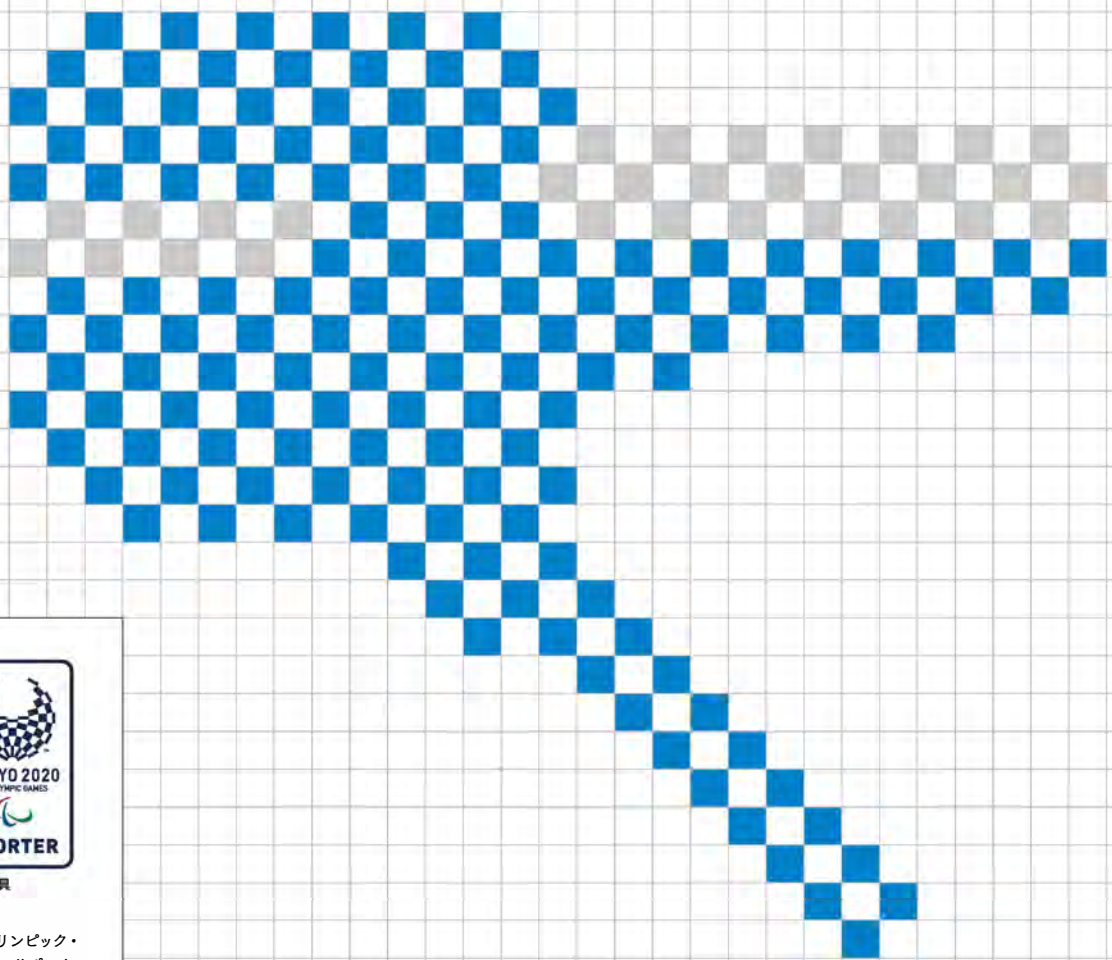
指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
407: 結社の自由と団体交渉		407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	
408: 児童労働		408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	<a href="#">サプライヤーとの取り組み</a>
409: 強制労働		409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	<a href="#">サプライヤーとの取り組み</a>
410: 保安慣行		410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	
411: 先住民の権利		411-1	先住民族の権利を侵害した事例	
412: 人権アセスメント		412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	
		412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	
		412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	
413: 地域コミュニティ		413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	<a href="#">日本国内での貢献活動</a> <a href="#">海外での貢献活動</a>
		413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所	
414: サプライヤーの社会面のアセスメント		414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	
		414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	<a href="#">サプライヤーとの取り組み</a>
415: 公共政策		415-1	政治献金	
416: 顧客の安全衛生		416-1	製品およびサービスのカテゴリに対する安全衛生インパクトの評価	<a href="#">文具の品質保証</a> <a href="#">家具の品質保証</a> <a href="#">カウネットの品質保証</a>
		416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	
417: マーケティングとラベリング		417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	
		417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	
		417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例報	
418: 顧客プライバシー		418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	
419: 社会経済面のコンプライアンス		419-1	社会経済分野の法規制違反	



ISO26000の中核主題に基づいて分類し、以下のように掲載しています。

ISO26000の中核主題	課題	掲載ページ
組織統治	課題1: 組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">トップメッセージ</a></li> <li>• <a href="#">CSRマネジメント</a></li> <li>• <a href="#">コーポレートガバナンス</a></li> </ul>
人権	課題1: デューディリジェンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">CSRマネジメント</a></li> <li>• <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>• <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>• <a href="#">働き方改革</a></li> <li>• <a href="#">人材育成</a></li> <li>• <a href="#">社員の安全と健康</a></li> <li>• <a href="#">人権尊重</a></li> <li>• <a href="#">ダイバーシティ推進</a></li> <li>• <a href="#">サプライヤーとの取り組み</a></li> <li>• <a href="#">データ集 社会</a></li> </ul>
労働慣行	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人材育成及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>• <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>• <a href="#">働き方改革</a></li> <li>• <a href="#">人材育成</a></li> <li>• <a href="#">社員の安全と健康</a></li> <li>• <a href="#">人権尊重</a></li> <li>• <a href="#">ダイバーシティ推進</a></li> <li>• <a href="#">サプライヤーとの取り組み</a></li> <li>• <a href="#">データ集 社会</a></li> </ul>
環境	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">CSRマネジメント</a></li> <li>• <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>• <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>• <a href="#">サプライヤーとの取り組み</a></li> <li>• <a href="#">環境経営マネジメント</a></li> <li>• <a href="#">地球温暖化防止対策</a></li> <li>• <a href="#">省資源・リサイクル対策</a></li> <li>• <a href="#">法順守と汚染の予防</a></li> <li>• <a href="#">環境に配慮した製品・サービスの開発</a></li> <li>• <a href="#">生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進</a></li> <li>• <a href="#">環境パフォーマンスデータ</a></li> <li>• <a href="#">拠点別レポート</a></li> <li>• <a href="#">結の森</a></li> <li>• <a href="#">エコバツへの取り組み</a></li> </ul>
公正な事業慣行	課題1: 汚職防止 課題2: 責任ある政治的関与 課題3: 公正な競争 課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5: 財産権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">CSRマネジメント</a></li> <li>• <a href="#">CSR推進体制</a></li> <li>• <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>• <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>• <a href="#">サプライヤーとの取り組み</a></li> <li>• <a href="#">コンプライアンスの推進</a></li> <li>• <a href="#">リスクマネジメント</a></li> </ul>
消費者課題	課題1: 公正なマーケティング、事実に即し	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> </ul>

	<p>た偏りのない情報、及び公正な契約慣行</p> <p>課題2: 消費者の安全衛生の保護</p> <p>課題3: 持続可能な消費</p> <p>課題4: 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決</p> <p>課題5: 消費者データ保護及びプライバシー</p> <p>課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス</p> <p>課題7: 教育及び意識向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">お客様への安心・安全の提供</a></li> <li>● <a href="#">「CSR報告書2018」アンケート結果</a></li> <li>● <a href="#">データ集 お客様の声の反映</a></li> <li>● <a href="#">エコバツへの取り組み</a></li> <li>● <a href="#">お客様との対話</a></li> </ul>
<p>コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</p>	<p>課題1: コミュニティへの参画</p> <p>課題2: 教育及び文化</p> <p>課題3: 雇用創出及び技能開発</p> <p>課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス</p> <p>課題5: 富及び所得の創出</p> <p>課題6: 健康</p> <p>課題7: 社会的投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>● <a href="#">2018年 主な新商品・サービス一覧</a></li> <li>● <a href="#">人材育成</a></li> <li>● <a href="#">日本国内での貢献活動</a></li> <li>● <a href="#">海外での貢献活動</a></li> <li>● <a href="#">外部からの表彰・評価</a></li> <li>● <a href="#">生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進</a></li> <li>● <a href="#">データ集 社会</a></li> </ul>



オフィス家具 & 文具

コクヨは、東京2020オリンピック・  
パラリンピックオフィシャルサポーター  
(オフィス家具 & 家具)として、  
大会の成功に貢献してまいります。

**KOKUYO**